



0
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10m
1
2
3
4

始

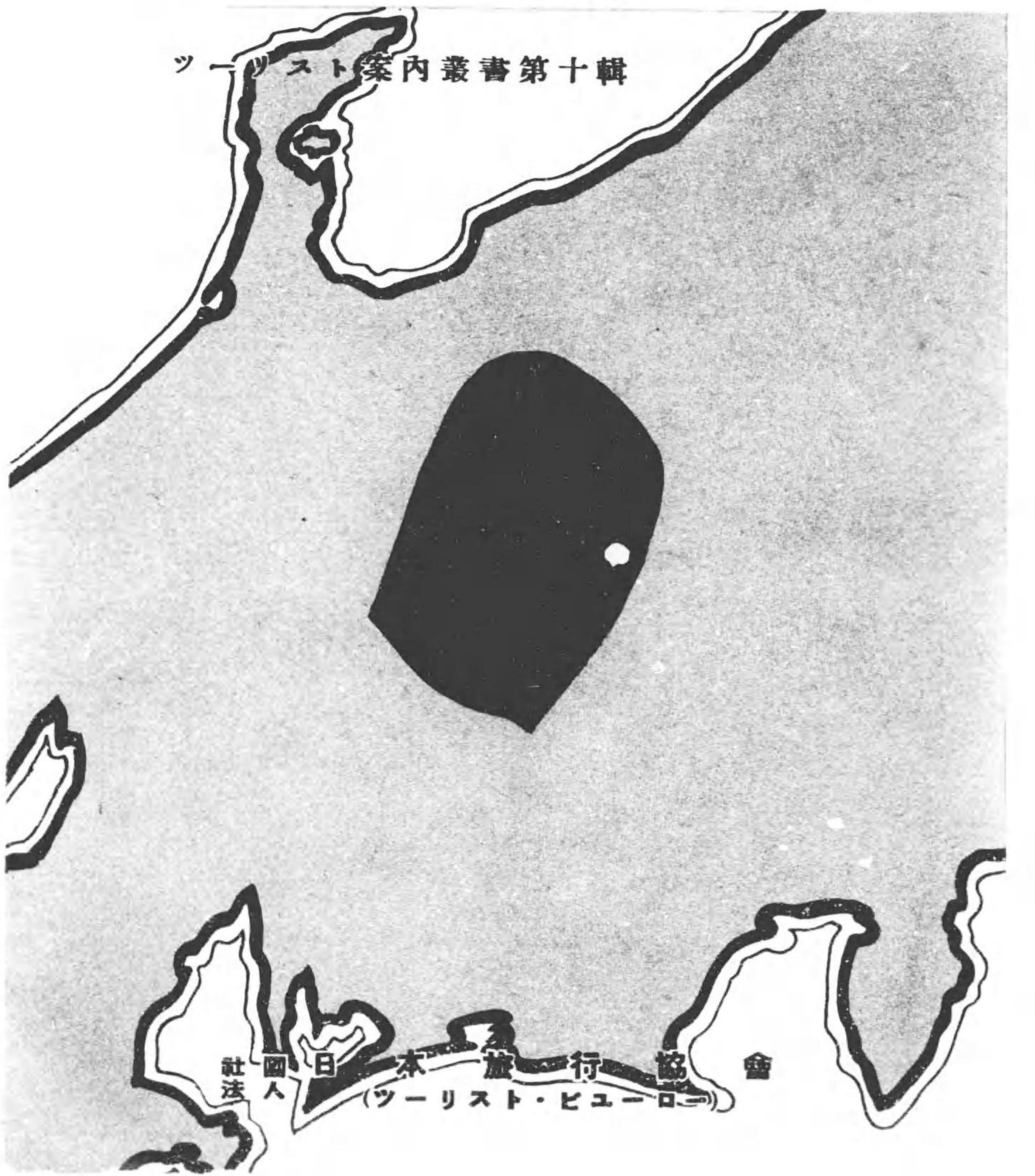


中部山岳地

特 1

9

ツーリスト案内叢書第十輯



山の注意

山は徒らに恐るべきでないが、しかし決して軽んじてはならない。一步々々細心の注意を要する。

一、登山の歩調は「急進數休」は否、「緩歩不休」を則とし、一步々々確實に踏行すべきである。水は多く飲まずる事。雪は絶対に食すべからず。腹痛下痢を起すことがあるから。

一、山上は恰も小兒の喜怒の如く晴曇風雨の激變甚だしく、然も自然の威力が平地に比して頗る大である。雲霧咫尺を辨ぜざるもの狼狽せざること。徒に動いて方向迷路を誤るは失敗の基である。同伴者ある場合又は團體登山の場合は己れ獨り群を離れずリーダーの指導に従ふこと。

一、登山の遭難は多くの場合、山上の暴風雨・濃霧・險岨な山稜・断崖・雪崩の通過の場合などである。天候の悪い場合は進行を中止して躊躇のを待つこと。险岨なる箇所を通過するときは、よくその危険箇所を注意した上、ザイルを使ふとか又は各自が協力して進行をすること。又断崖には往々岩石の崩壊があるから雁行して登ることは避けた方がよい。

一、一般に日本アルプス地方の山路は普通登山路の如く容易なるもの少く、地既に高山にして附近は人家なき深山幽谷を通過するのであるから只漫然と用意なしに行くことは慎むべきである。殊に難路にあつては距離

【装】 脚袋は活動に便利な軽快な洋服がよい。カーラーは柔かなものを使ひ、雨覆あるボケットの多いもの程便利である。一度登山すれば益しく汚損するから布地は出来るだけ丈夫なもので防水性のものがよい。しかし、ゴム引はよくない、ズボンは半ズボンがよく、上着もズボンもボトムに覆のあるものがよく、覆にボタンがあれば尚更都合がよい。巻ゲートルは靴とズボンの密着の箇所に巻けば具合がよく、日本在來の紺脚綱マストツキングも便利である。下着は濡れた場合早く乾くためシャツ、ズボン共薄いものがよく、なほ日中汗をかくから着換えを用意するがよい。靴は編上紙打の底の厚い登山靴がよい。靴下は毛製のもので穿き替用を用意すべきである。靴を穿き慣れない人は草鞋がよい。草鞋のときは甲掛足袋の丈夫なものでないと指先を傷けることがある。草鞋は脚が軽くて實に歩き易いから、良い甲掛足袋と共に一日二足の割合で準備し、品質を選択すること、雨衣は防水の軽いレインコート類のもの又は着ゴザと油紙とを所持すればよい。油紙は他の品物を包むにも都合がよいから餘分に用意すること、着ゴザは日中除けとなり、又途中の休憩や雪隠れ等の敷物としても重寶である。帽子は古いソフトの中折又は布製の柔かなもので折畳み自在、且つ水切れのよいものを選ぶべきで、檜笠の如きは風雨の場合は離合である。手袋は高い山では防寒用になるし、岩場や樅松帶ではぜひ必要であるから忘れてはならない。

【携帶品】 携帶品の選擇には十分の注意が要る。これはその目的とする山によつて異なるが、軽くて嵩張らないことを條件として選択すべきである。携帶品入にはルックザック（背負袋）が最も便利である（防水してある。アルペンストック等が役立つ）。鐵櫛（アイゼン）（不完全なものは雪渓踏破の場合は足金や爪金が曲つたり離れたりすることがあるから丈夫なもののみ選ぶ様に注意すること）。地圖・時計・懷中電燈・水筒（魔法壺より水筒の方が便利である。水飲用コップも人用）。手拭（山岳旅行等原始的生活には極めて調方なものであるから餘分に携行すると便利である）。マッチ（常用又是屢マッチ）等、又山小屋のないところでは天幕・防寒用衣類・寝袋・炊

近き故を以て短時間に到達し得るものと速断するは失敗を招く因となる。

一、登山期間中鐵道の各主要駅には毎日山の天候が掲示されるから注視すること。夏山登山に對しては汽車自動車等の連絡割引乗車券が發賣される。またコースによつては觀光券の發行も出來る所もある。

登山者の心得

〔登山の準備〕

一、出發せんとするときには、まづ目的の山やコースに對し、また必要な準備に就いて充分の知識を得なければならぬ。

一、登山は先づ自己の體力と健康とを考へ、適當な山を選ぶべきでその出發前、近くのハイキング・コースで足馴しをしておくことも必要である。また天候は充分研究し決して無理があつてはならぬ。

一、登山する山に對しては、豫め地圖や著書又はその方面の識者に就いて研究してから登山行程を定めることである。そして登山者の少ない、危険の多い山に對しては、出來得る限り熟練した案内人を傭ふことを忘れてはならない。

一、登山行程は三日に一日の割で雨天の場合に備へてほしい。山では無理な歩行と、いはゆる勇猛な登山は禁物である。殊に天候の悪兆を見たら登山を中止して快晴を待つべきである。

【事具等】 事具等が必要である。その他雜具として呼子笛・磁石・望遠鏡・小刀・罐・切・毛拔・鉛筆・手帳・集印帖・石鹼・齒磨具・用紙類・網引・薬品類・糸と針が必要である。雲渓及日光の強い時にかける茶色の眼鏡を携行するといよ。窮屈器を持參する人は山は意外に濕氣が多いからその注意を忘れてはならない。

▲防寒具としての手袋は冬向きの丈夫なものを選び、外に軍手も必要である。足袋は穿き替用を餘分にもつとよい。雨時又は朝夕は思の外寒いから冬シャツ・オーバーセータ・腹巻・懷爐も用意するといよ。

▲地圖は陸地測量部發行の五萬分の一地圖が登山用として、日本北アルプス一帯は白馬岳・立山及黒部近傍岳と槍ヶ岳・上高地・乘鞍岳近傍岳の二葉になつて居り、南アルプス方面は白根山近傍岳及赤石岳近傍岳の二葉になつてゐる。又毎年信濃教育會北安曇部會で發行してゐる（東京小林又七にて發賣、一枚六〇錢）日本北アルプス地方圖（五色刷十二萬五千分一）も良い地圖である。地圖はセルロイド製の圖表に入れて使用すれば雨に遭つても濡れないでよい。

▲食料品は近年山小屋の設備完全になり特に米や味噌を持つて行く必要はない様になつた。豫備食料としてパン等携帶し、辨當は決して人夫に任せはれど飢んで飲用しないが宜敷い。

▲藥類は蚤取粉・仁骨・寶丹・ワセリン・脱脂綿・脛創膏・繃帶等が必要である。又興奮剤としてウイスキー或はブランデーの類を用意するは可能。

〔註〕 大體に於て何れの組合でも案内人に對する食費・宿泊料・歸りの日當及び旅費は傭主が持つこと、なつてゐる。尚信州口では電車・自動車の運賃及宿泊料を案内人に限り二割乃至三割引してゐる所もある。

日本アルプス

日本アルプスの名は今から五十餘年前に英人ウイリアム・ガウランド氏によつて初めて用ひられた名稱で、その當初は單に飛驒山脈北半の地域を呼ぶに過ぎなかつたが、その後次第に範圍が擴大されて現在では駿河・甲斐・信濃・飛驒・越中・越後の境上に亘る擴大な地域を指すに至つた。此の地域は本州の中部に蟠る大山脈でいはゆる日本の脊梁をなす深山幽谷、神祕の境域で、之を北・中央・南の三部に大別してゐる。即ち飛驒山脈を北アルプス、木曾山脈を中心アルプス、赤石山系を南アルプスと稱してゐる。

所謂北アルプスは地理學上の飛驒山脈で、日本アルプスの名を最初に冠せられたところである。その北限は急崖を以て日本海に没し、古來有名な親不知の嶮をなして居り、東及南は姫川・高瀬川・奈良井川・木曾川に臨み、海拔凡そ二千米の急崖（越中・飛驒・美濃の三國に跨る高地）に漸次降下し、その境界甚だ明瞭を缺いてゐる。

山岳は最も南にある御岳（二千八百米）から北の穗高岳（二千九百米）を最高峯として槍ヶ岳（三、二千米）など三千米級の高山を主峯とし、また殆んどその高度に近い大天井（二、三千米）・常念

松本（島々電車三四分（一五糺七）片道四四七往復七八錢
鳥々宿（鳥々驛から二糺三、バス一〇錢）は槍ヶ岳・乘鞍岳・飛岳・飛驒岳の登山案内組合事務所がある。

高
上
地
島々から上高地へは梓川沿いと徳本峠越えとの二途ある。
一、梓川沿ひ 島々宿から梓川に沿うて奈川渡・中ノ湯・大正池等を経て上高地の河童橋迄自動車の便がある。所要二時間半（三四糺）、バス一圓五〇錢。
二、徳本峠越え 島々宿から島々谷に沿うて溯るもので、上高地迄約二七糺、全部徒歩による。途中駄駄（島々から約一〇糺）には小屋があり宿泊も出来る。駄駄から徳本峠は約六糺、かなりの急坂で二時間位を要する。徳本峠はアルプスの前衛とも云ふべく、海拔二、一三二米、豪然と聳める穂高嶺を仰ぎ、上高地の渓谷を瞰下する壯觀は言語に難する。頂上に茶店がある。それから急坂を約四糺で梓川河畔に下る。川に沿うて更に約四糺下ると上高地で島々から一一日行程である。上高地はまた神河内とも書かれ長野縣安曇郡安曇村になつてゐる。

上高地は中部山岳國立公園内にある梓川上流の谷盆地即ち、穂高嶺・焼岳・霞澤岳・六百山等に囲まれた地域で、北は横尾谷から南は大正池附近に亘り、長さ約十五糺、幅二糺内外で狹長なS字狀をなしてゐる。上部河童橋では海拔一、五〇六米、即ち五千尺で、上高地唯一の勝地と云はれ、こゝから四周の山を仰ぐ景觀は最も莊嚴である。上高地は只單に渓谷美のみではなく、山岳・森林・湖沼・高原・渓谷・瀑布・平原・温泉等有ゆる風景の要素を具備し、然もその美は斷然類を見ざる獨歩の特長を有してゐる。

梓川の清流ゆるやかに流れ、大正池・田代池・明神池などを抱いて神秘的な境域をなし、日本アルプスの盟主槍ヶ岳・穂高嶺を初めその他の登山根據地として最たる地を占め、しかも登山者を癒す温泉があり、夏の上高地は實に

スブルア北

〔二、八百米〕・燕（二、九百米）・針ノ木（二、八百米）・鹿島槍（二、八百米）・白馬鐘ヶ岳（二、九百米）・白馬（二、九百米）等を南北一列に連ね、西北に薬師（二、九百米）・立山（二、二百米）・劍岳（二、二百米）、中央に烏帽子（二、三米）・鷲羽（二、九百米）及乗鞍（二、二百米）等高山峻嶺凡そ百

座を連ね、その高さ二千五百米を越ゆるもの四十數座に上つてゐる。

之等の群峯は何れも山容勝れ、平均の高さは南アルプスに稍劣るが、槍状に尖つた奇峯が多く、御岳・乘鞍岳の火山が並走するため、歐洲アルプスの如く變化に富み、夏期残雪が多く、大雪渓の美、高山植物の豊富、山麓隨所に涌く温泉など、我が國山岳美的極致をなし、登山家の憧憬的となつてゐるところである。殊に日本アルプスの盟主槍ヶ岳の稜状岩石、白馬岳の高山植物、劍岳の白雪、立山々頂のパノラマ的眺望、上高地の渓谷、黒部川の奔流は六大奇觀と稱せられてゐる。

中部山岳國立公園は北は白馬・立山から南は上高地・乘鞍岳に至る所謂日本北アルプスの全區域を占め、長野・岐阜・富山・新潟の四縣に跨がり、面積一七一、二〇〇町歩に亘る一大山岳公園である。即ち白馬・立山・劍・乘鞍・鹿島槍・針ノ木・薬師・鷲羽・燒・笠ヶ岳・烏帽子・黒岳・鷲羽・常念・薬師・槍・穗高・燒・笠ヶ岳等雄渾無き萬尺級の連峰と、豪壯な黒部峡谷や静寂明媚の上高地梓川渓谷其他黒蓮、綠名・雙六等の渓谷を含み、或は彌陀ヶ原・五色ヶ原・雲ノ平の如き高原を抱き、隨所に展望する御花畑や明快な岩壁美、雪苔たる林相美等は日本アルプス特有的景觀を誇つてゐるのである。また平湯・上高地・白骨・中房・萬・立山・鍾釣・連葉等の諸温泉は好適な位置を占めて散在し、自ら恰好の登山根據地をなし、山上百ヶ所に近い山小屋の設備と縱横に開拓された登山道は登山を容易ならしめ、上高地其他の野營地と相俟つてまさに本邦登山地の王座を占めて居る。尚乗鞍・白馬山麓・立山阿彌陀ヶ原等は超好の山岳スキーフとして近時利用者が激増しつゝあるのである。

中部山岳國立公園

アルプス登山者の樂土で、こゝを發足地として幾多の登山コースが選ばれるのである。されば嘗ては新八景の一に選ばれ、また日本國立公園に選定されて著しくその聲價を高めるに至つた。

〔旅館〕 上高地帝國ホテル（純洋式。一泊三食付一五圓以上）、
◎五千尺旅館（河童橋附近、四圓半）。西糸屋、丸西

上高地温泉 河童橋の約一糺手前にある。温泉は單純泉で泉温四三度、胃腸病・リウマチス・婦人病・神經衰弱症等に効くと云ふ。

〔旅館〕 ◎清水ホテル（四圓）

大正池 上高地盆地南端の池で最大水深三米九四、周圍二糺四であるが閉塞の土砂の浸蝕と上流土砂の埋積のため次第に面積縮少の傾向があると云ふ。この池は大正四年六月六日、燒岳の噴煙、穂高の峻峰を背景として上高地の景觀に一段の光彩を添へてゐる。こゝから上高地河童橋まで約二糺、バス十錢。

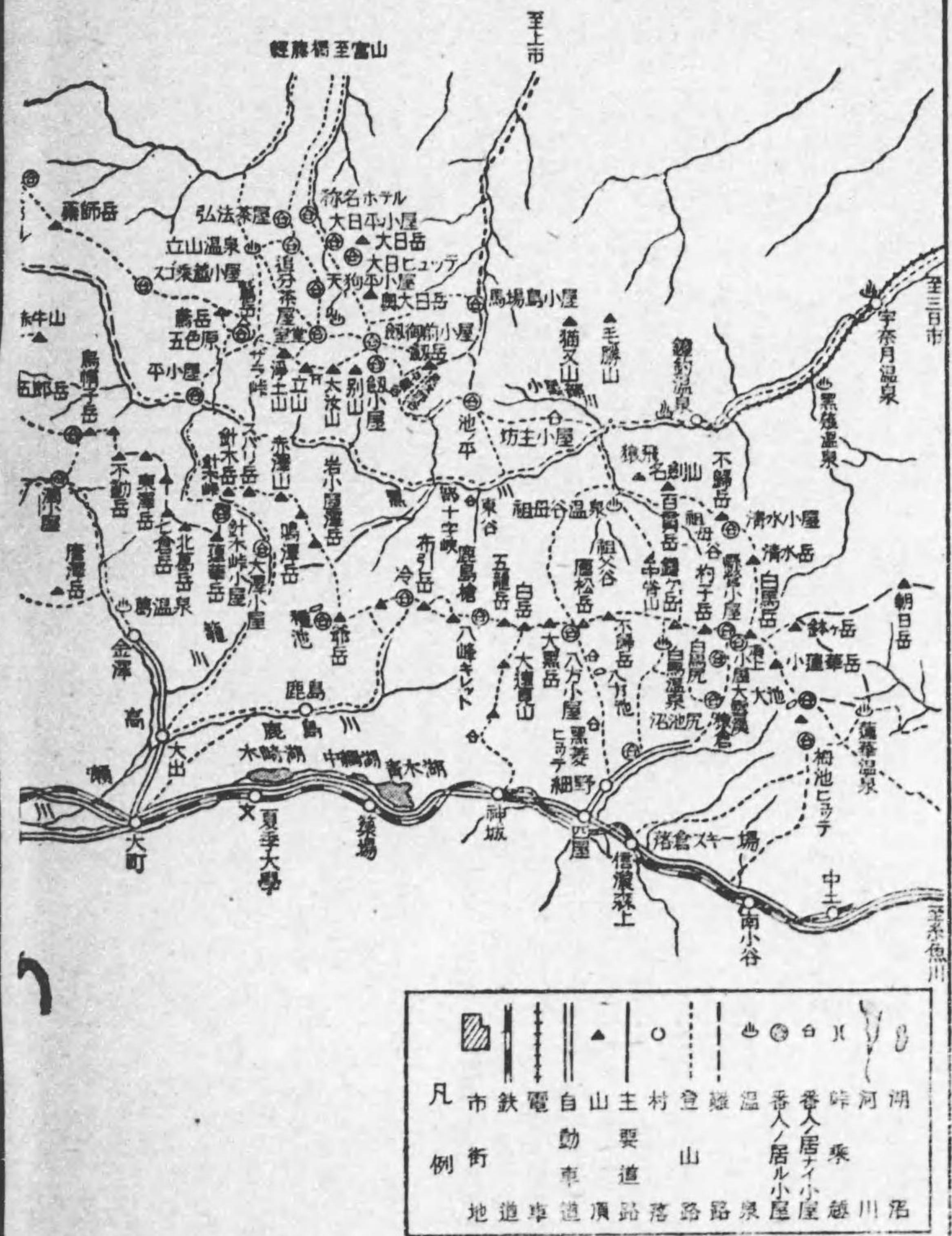
〔上高地渓谷探勝日程案〕

第一日 松本驛主事島々驛（二糺）一糺半、二時間半 上高地（泊）
一時間半
第二日 上高地（河童橋）
一糺半
一時間半
明神池
一糺半
德澤園
一時間半

日本北アルプ



ス登路概念圖



明神池……上高地(旅館泊)

第三日 上高地 $\xrightarrow{\text{八時間}} \text{一六} \text{杆}$ 德本峠 $\xrightarrow{\text{四時間半}} \text{島々宿} \xrightarrow{\text{二時間半}} \text{島々驛}$

主張松本驛 \downarrow (歸宅)

槍ヶ岳 $\xrightarrow{\text{三時間半}} \text{松本・燒岳・槍ヶ岳}$

〔地図〕五萬分一 松本・燒岳・槍ヶ岳

穂高嶽 $\xrightarrow{\text{三時間半}} \text{松本・燒岳・槍ヶ岳}$

〔地図〕五萬分一 松本・燒岳・槍ヶ岳

長野縣南安樂郡・岐阜縣吉城郡に跨り、中部山岳國立公園の略中央に屹立する第二の高峰で、日本の「マツタ」ホーンとして登山者の最も多いところである。信濃川・神通川の水源地をなし、石英斑岩から成る尖頂百米、恰も槍の穂先の如く直立、天空を衝いて他の群峰を壓し、北アルプス中の一偉觀をなしてゐる。南方に連る山稜は穗高諸峰を起して最高且つ最もアルプス的な連峰をなし、又その肩を四方に曳いてゐる。

上高地 $\xrightarrow{\text{一六杆}} \text{一ノ俣小屋} \xrightarrow{\text{四時間半}} \text{殺生小屋} \xrightarrow{\text{五〇〇米}} \text{槍ヶ岳}$

岳肩の小屋 $\xrightarrow{\text{一〇〇米}} \text{頂上}$

槍ヶ岳登山は大抵殺生小屋か肩ノ小屋に一泊し、そして上高地へ引返すが、大天井岳から燕岳へ縦走、中房温泉に出て一泊、大糸南線の有明驛に出来るのである。この縦走はアルプス中最も一般的で容易、且つ興味あるところとして著名である。また南の大喰岳から穗高連峠を縦走して上高地温泉へは一日行程でも出られる。

肩ノ小屋は北アルプス中最高峰にある小屋で、こゝまで登ると、もう北アルプスの大觀が際限なく廣がる。山頂は極めて狭く僅か三十人位で一杯になる程である。

山頂からは北アルプス全體の峰々が一々指摘出来るばかり

槍ヶ岳の南方にある一群の山峰の總稱、即ち信飛國境の山脈の一部で南北に連り、北端の北穂高嶽($3,180\text{m}$)は大キレットを隔て、槍ヶ岳山群の南嶽に對し、その南には涸澤岳($3,030\text{m}$)、奥穂高嶽($3,120\text{m}$)が聳え、以南は山稜二分して東南に前穂高嶽($3,020\text{m}$)、西南に西穂高嶽($3,020\text{m}$)を起し、西穂高から山稜急に低下して燒嶽方面に連つてゐる。之等群峰の東は梓川谷、南は上高地の盆地、西は蒲田谷につて限られてゐる。奥穂高嶽は本邦第三の高峰で北アルプスの最高峰であるばかりではなく、群峰としても日本アルプス中之に比肩すべきものなく、また角閃玢岩及閃雲花崗岩から成る莊嚴な岩石美も他に比すべきものがない。實に於ける氷河作用も亦涸澤岳直東の涸澤の闊谷に見ることが出来る。

上高地 $\xrightarrow{\text{八杆}} \text{山路急坂} \xrightarrow{\text{七時間}} \text{前穂高嶽} \xrightarrow{\text{三時間}} \text{奥穂高嶽} \xrightarrow{\text{一杆}} \text{穂高小屋}$

穂高小屋は奥穂高岳と涸澤岳との鞍部にあり、登山期中は八〇人位宿泊出来る。穂高・槍焼走等の登山者に好い休泊所である。

健脚で山に馴れた人は一日で縦走出来るが、しつかりした案内人を雇ふのが安全である。また崩壊性を帶びた岩石地帯もあるから同伴者と登る時には落石に注意することである。

奥穂高嶽頂上の大觀は實に雄大である。南は脚下に上高地を俯瞰し、前穂高・西穂高は鋭い峰を連ねて兩翼の如く男性的な山骨を聳えさせ、燒岳は近く噴煙を見せ、その他四圍に北アルプス連峰を一時に集め、又遠く南アルプス連峰から遙かに富士山を望み、その眺望には際限がない。

燒

〔地図〕五萬分一 松本・燒岳

乘鞍嶽 $\xrightarrow{\text{三時間半}} \text{松本・鹽尻・燒岳・乘鞍岳}$

〔地図〕五萬分一 松本・鹽尻・燒岳・乘鞍岳

信飛の國境、上高地の西南に聳える鐘狀活火山で、頂上の火口中には更に數個の小火口があり、その南北側には馬蹄形爆裂火口、東側には略東西の二裂隙がある。明治四十一年爆發以來屢活動を繰返し、大正四年東方へ流下した泥流が梓川を堰止め大正池を造り、上高地の景觀を一層美化せしめた事は世人の廣く知る處である。然しそのために全山禿山と化し、碎岩巨石累々として黒木立の枯れた殘骸が多く、全くの燒山と化した。

(イ) 上高地 $\xrightarrow{\text{六杆}} \text{往復} \xrightarrow{\text{六時間}} \text{燒岳} \xrightarrow{\text{四時間}} \text{中湯} \xrightarrow{\text{八杆}} \text{上リ} \xrightarrow{\text{三時間}} \text{燒岳}$

上高地から最も容易にアルプスの大觀に接しようとする人、又は穂高や槍ヶ岳へ登る時間を持たぬ人は是非この燒岳を選ぶべきである。峰に小屋あり休泊出来る。

山頂からは上高地渓谷を脚下に、穂高岳から槍ヶ岳への連嶺、飛驒の笠ヶ岳から加賀の白山を臨み、南には乗鞍岳、御岳を仰いで展望は實に雄大である。

乘鞍嶽 $\xrightarrow{\text{三時間半}} \text{松本・鹽尻・燒岳・乘鞍岳}$

〔地図〕五萬分一 松本・鹽尻・燒岳・乘鞍岳

北アルプス連峠の南端將に盡きんとする處、長野縣南安樂郡と、岐阜縣吉城・大野・益田の三郡とに跨る複雜な集合火山羣で、南は御嶽と相呼應して、雄大な裾野を曳いてゐる。山頂は舊火口壁で火口壁の群峯が起伏し、劍ヶ峯($3,330\text{m}$)、大岩岳($3,250\text{m}$)、四ツ岳($3,250\text{m}$)等の峯が略ぼ南北に並列して、これを高山方面から望めば山容馬背に似る處から此の名があると云ふ。山上には權現池を初め大小數個の山上湖があり、裾野はよく發達して桔梗ヶ原・番所ヶ原などがある。桔梗ヶ原附近は高山植物が多く、夏期はアルプス中屈指のお花畑と化し、また冬はその廣大なスロープは絶好のスキー場となり、北アルプス中立山附近と共に著名なところである。

登山は飛驒方面からと信州方面からとの二途あり、信州側には白骨溫泉・番所ヶ原・飛驒側には平湯溫泉・平金鑽山・九藏・阿多野郷・野麥等の登山口がある。

島々驛 $\xrightarrow{\text{四分}} \text{松本} \xrightarrow{\text{二杆}} \text{前川渡} \xrightarrow{\text{二杆}} \text{大野川} \xrightarrow{\text{二時間半}} \text{鈴蘭小屋}$

島々驛 $\xrightarrow{\text{四分}} \text{松本} \xrightarrow{\text{二杆}} \text{前川渡} \xrightarrow{\text{二杆}} \text{大野川} \xrightarrow{\text{二時間半}} \text{鈴蘭小屋}$

(高山線)高山驛 $\xrightarrow{\text{三杆}} \text{一時間半} \xrightarrow{\text{六杆}} \text{平湯峠} \xrightarrow{\text{六時間}} \text{飛驒・乘鞍岳}$

山上に絶頂小舎があり宿泊出来る。そこから最高處槍ヶ岳迄約一時間で行ける。

りでなく、遠く淺間から八ヶ岳・南アルプス・富士・白山など中部の高山大嶽が一時に入り展望は實に雄大である。

山頂からは南に御嶽、東に木曾駒から南アルプスを望み、北には上高地渓谷や穂高岳、槍ヶ岳の雄姿が特に美しく仰がれ、西南に加賀の白山や飛騨高原を望んで展望頗る雄大である。

燕嶽・常念嶽・大天井嶽

〔地図〕五萬分の一 松本・池田・槍ヶ岳

燕(三、戈采四)・大天井嶽(三、九采二)・東天井嶽(三、八采一)・常念(シヤウツ)嶽(三、八采米)・槇ヶ嶽(三、六采米三)等の連亘せる一脈を常念山脈と云ひ、北アルプスの前衛とも稱せられてゐる。常念山脈の名は、松本平から望むと常念岳の山容が最も秀麗なところから斯く呼ばれるのである。

燕 嶽 長野縣北安曇郡と南安曇郡との郡界に屹立する高峯で全山花崗岩から成り奇岩突兀、山容秀麗、岩間にお花畠があつて特に美しく、頂上の展望は雄大壯美である。北は遙かに立山・白馬岳を望み、西南脚下に高瀬川の谷深く稍南に槍ヶ岳が近く高瀬川の谷に山足を没して最も大きく聳え、その左東南には燕岳から峯續きに常念山脈の大天井岳を経て槍ヶ岳へ連る峯が弓状に走り、之に沿うて登山路が一條續いてゐるのが望まれる。この林道はよく改修され、所謂アルプス銀座の稱ある處である。また有明山・安曇平野を近く一眸に收め、西には野口五郎・三俣蓮華等の峻峰が望まる。

燕岳は最も容易にしかも短時間で登られる北アルプスの

展望臺で、婦女子にも容易に登れる。標高の割合にアルブス諸峯の大觀を悠にすることの出来るのは他にその類が少い。

大糸南線有明驛 一〇分、杆 一之瀬 一時間餘、信濃坂 一時間半、杆

(駅からハイ) 中房温泉 六分、杆 燕岳

山上には設備完全、百名位宿泊出来る燕山莊がある。常念嶽 大糸南線豊科驛の西北二二杆、烏川の上流に當る一高峯で、山上の眺望がよい。燕岳から常念岳への大天井岳で槍ヶ岳への道と分れ、左して大天井岳に登り、常念小舍に出て登る。燕から常念岳に登つて一ノ俣小舍に下り一泊するのが一日行程であるが、常念小舍に一泊して翌日上高地へ出るのもよい。

大糸南線豊科驛 三分、杆 須砂度 六時間、常念岳

白馬嶽

〔地図〕五萬分一 大町・白馬岳・立山・黒部

篠ノ井線松本驛で大糸南線に乘換へ、信濃大町を経て信濃四ツ谷驛下车。信濃大町は針ノ木越、立山への横断や鳥帽子岳から槍ヶ岳縦走、又は鹿島槍岳登山の發足地で夏は登山客で賑ふ。途中に所謂仁科三湖があり、鹿島槍岳から白馬岳への峯々が美しく眺められる。

四ツ谷は白馬登山の準備地で旅館や登山案内人組合事務所があり、二股迄四杆、バスの便がある。

松本—信濃大町—信濃四ツ谷 二時間三〇分(五九杆七)

新宿—松本—四ツ谷 二時間五分、豪華合價(税込)

一日の行程である。

歸路は槍ヶ岳を縦走してその東山腹の日本最高所(海拔二、一〇〇米)にある白馬温泉に一泊して南股澤を下り、二俣に出て四ツ谷へ下るのが興味多く、最も普通のコースである。頂上小舎から白馬温泉へ約八杆、温泉小屋には約六〇人宿泊出来る。温泉に浸り乍ら日の出の大觀に接し雲海を望むことは他で味ひ得られぬところである。

白馬 嶽 〔地図〕五萬分一 大町・白馬岳・立山・黒部

名古屋—松本—四ツ谷 八時間餘、三等三里二五錢(税込) 北陸鐵三日市驛で黒部越道に乗換、宇奈月にて日電軌道に便乗籠約に至り、祖母谷—清水小屋—白馬頂上小屋に達す。

通稱ハクバ、別名を大蓮華嶽と稱し日本北アルプスの最北端に聳える雄峯で信濃・越中・越後に跨り、その雄大な山容は群峯中の重鎮である。後立山々脈の北方に位し、飛騨山脈は此の白馬嶽を起して山勢漸く衰へ、北陸海岸の親不知附近に到つて日本海に山足を没してゐる。東方信州側は北アルプス中最も壯麗な斷層崖をなして北安曇郡北城の盆地に下り、盆地の水は北流して糸魚川となり日本海に注いでゐる。西側は比較的緩傾斜をなして黒部川に落ち、立山と相對して居る。白馬は北アルプス中でも特に北に偏する關係で積雪量及び夏期残雪が多く、雪渓の發達著しいものがある。然し峻坂が少いため登山が比較的容易で、日數を要しないのと、小屋の設備が整つて居ると、また大雪渓があり、お花畠の美はアルプス中最も優れてその種類も豊富であり、且つ展望の雄大な點など、あらゆる特色を備へてゐるので知られ、特に婦女子の登山者の多いことはアルプス中隨一である。

大糸南線信濃四ツ谷驛 五分、杆 二股 六分、杆 猿倉 一時間、杆

白馬尻 四分、杆 白馬頂上

白馬尻には小舎がある。白馬尻からは所謂白馬の大雪渓で、雪渓の斜面を登ると頂上小屋がある。解説小屋は百人位、頂上小屋は四百人以上宿泊が出来る。頂上小屋から越頂迄は約八百米、普通四ツ谷から

長野縣安曇郡にある木崎・中綱・青木の三湖で、一に仁科三湖と稱し約四杆の間に南北に連つてゐる。仁科は信濃北安曇郡大町の舊稱で、中古仁科氏の治所であつた處から斯く呼ばれた。三湖は大町の北にある斷層湖で、農具川が之を貫流し、犀川の支流高瀬川に合してゐる。三湖は共に温帶湖に屬してゐるが、夫々異つた特性を備へ、湖沼學研究に好適の處であると云はれてゐる(大町及び中土驛間にバスの便あり)。

青木湖 最北に位し篠場驛の北一杆餘、海拔八二二米、面積三・五四平方米、水深八五米、三角形をなし冬期湖

日本三名山の一に數へられ、信心の登山者が多い。

面の結氷を見ることがない。湖畔は夏期避暑に適してゐる。
旅館、和泉屋、湖端館がある。

中綱湖 築場驛から一〇〇米、海拔七五八米、面積三・

四平方糸、水深一三米で冬はスケートによい。

木崎湖 最南に位し、信濃木崎驛から一糸(バス十錢)。

海拔七三〇米、面積三・一一平方糸、水深二九米、冬はスケ

1ト場となる。

湖畔に農林省水産講習所・木崎養魚試驗所・信濃大學・

仁科氏の城跡及び學者村等があり、旅館に滄浪閣、達磨屋、

近江屋(二圓半十五圓)等がある。

三湖は何れも魚類を產し(鰐・鰐・ウグヒ・ヨナ・アメ・鮎・鰐・鰐)、

四邊の風致も幽遠で西方に鹿島槍一帶の銳峯を仰ぎ見ることが出来る。

立

山 (海拔三〇五米)

〔地図〕五萬分一五百石・黒部・立山・大町・富山

飛騨山脈の西北端、富山縣の東南隅に蟠居する海拔三千米を超える峻峯の大山集で、盟主雄山(海拔三〇〇米)を中心として北に大汝山(三〇五米)・別山(二六四米)・劍岳(三〇〇米)・猫又山(三〇五米)・毛勝山・駒ヶ岳・僧ヶ岳が相連り、南には淨土山(三〇五米)・藥師岳(三〇六米)・黒部五郎岳等が屹立している。この山集は黒部川の上流、神通川の支流双六谷と高瀬川の上流湯俣谷の一部によつて限られ、殊に黒部川の上流は山側を浸食して天下の奇勝たる黒部の上廊下・下廊下を形成してゐる。古來富士山・白山と共に

北アルプスに最西北端に雄偉な山容を現はし、彌陀ケ原・五色ヶ原等の熔岩臺地を作り、數ヶ所の爆裂火口壁を有し、温泉の涌出多く、高原・池沼に富み、冰雪・大火カル・お花畠を開ける壯觀は日本アルプス中第一と云ふも過言ではない。殊にその偉容は、これを信州側の針ノ木岳又は後立山連峯から望んだ時に、その極に達すると云つてよい。

登山は劍岳を除いては比較的容易である。雄山の絶頂には有名な雄山神社(天手力雄尊を祀る)があり、その東面下には

サル又のカールの壯觀がある。別山は内藏ノ助のカールで有名な眞砂岳から一時間、冬季は積雪が多い。

劍岳は立山本峯の北にあり、岩峯の美と峻峻さに於ては

穗高岳に匹敵し、頂上から東へ續く八ツ峯の鋭い鋸歯状の嶮岨な山體は壯觀であり、その峻峻さは登山家の苦心する處である。

立山の西南面室堂小屋附近からは火山性の雄大な彌陀ケ

原高原が十平方糸以上も開けてゐる。冬期は雪積量多く、十二月から五、六月頃までスキーに適し、我國最大のスキ

ー地として知られる。

登山路は大體北陸線の富山口と松本側の信濃大町からと

の二途がある(登降経路略圖参照ありたし)。

山上の展望は日本アルプス中多くその比を見る處で、峻嶺・高嶺は殆んど一眸の中に之を收めることができるのである。即ち東は眼下に深い黒部谷を俯瞰し、その対岸をなす針ノ木岳から鹿島槍・白馬へ續く後立山々脈の峯々を眺

A案 白馬岳往復 所要日数二日 乗物宿泊料概算約四圓
第一日 信濃四ツ谷驛→二俣・猿倉・白馬尻小屋・大雪渓
…ネズカ平・白馬頂上小屋(泊) 第二日 往路を引返す

〔註〕最も容易な登山コースであるが白馬尻小屋から二千餘の大雪渓があるからアイゼンを豫め用意し置くこと。御花畠は葱平(大雪渓の上)から頂上附近にあり百花咲き亂れて實に美事である。

B案 白馬・杓子・鐘 所要日数二日 乗物宿泊料概算約四圓
第一日 四ツ谷→白馬頂上小屋(A案による)
第二日 白馬頂上・大池小屋・杓子岳・白馬鐘ヶ岳・鐘温泉…
二俣→信濃四ツ谷驛→松本↓

C案 白馬・大池 所要日数二日 乗物宿泊料概算約四圓
第一日 四ツ谷→白馬頂上小屋(泊) (前期A案による)
第二日 白馬頂上・大池小屋・杓子岳・白馬鐘ヶ岳・鐘温泉…
或は 二俣→信濃四ツ谷驛→松本↓

D案 白馬・黒部・宇奈月 所要日数三日 乗物宿泊料概算約三圓
第一日 四ツ谷→白馬頂上小屋(泊) (前記A案による)
第二日 白馬頂上・清水岳・祖母谷温泉・鐘釣旅館(泊)
第三日 鐘釣→宇奈月温泉→松本↓

左記日程及コースは最も多くの登山者が採る代表的コースを見本として掲げたものであるからこれを参考として各種のコースを安排し、各自の都合や體力で日程を組合せる
と面白いコースが出来ると思ふ。

費用概算は省線下車驛から歸りの乗車驛迄の交通及宿泊
費用(案内料は不含)等を概算したものである。

…は自動車

…は徒步を示す

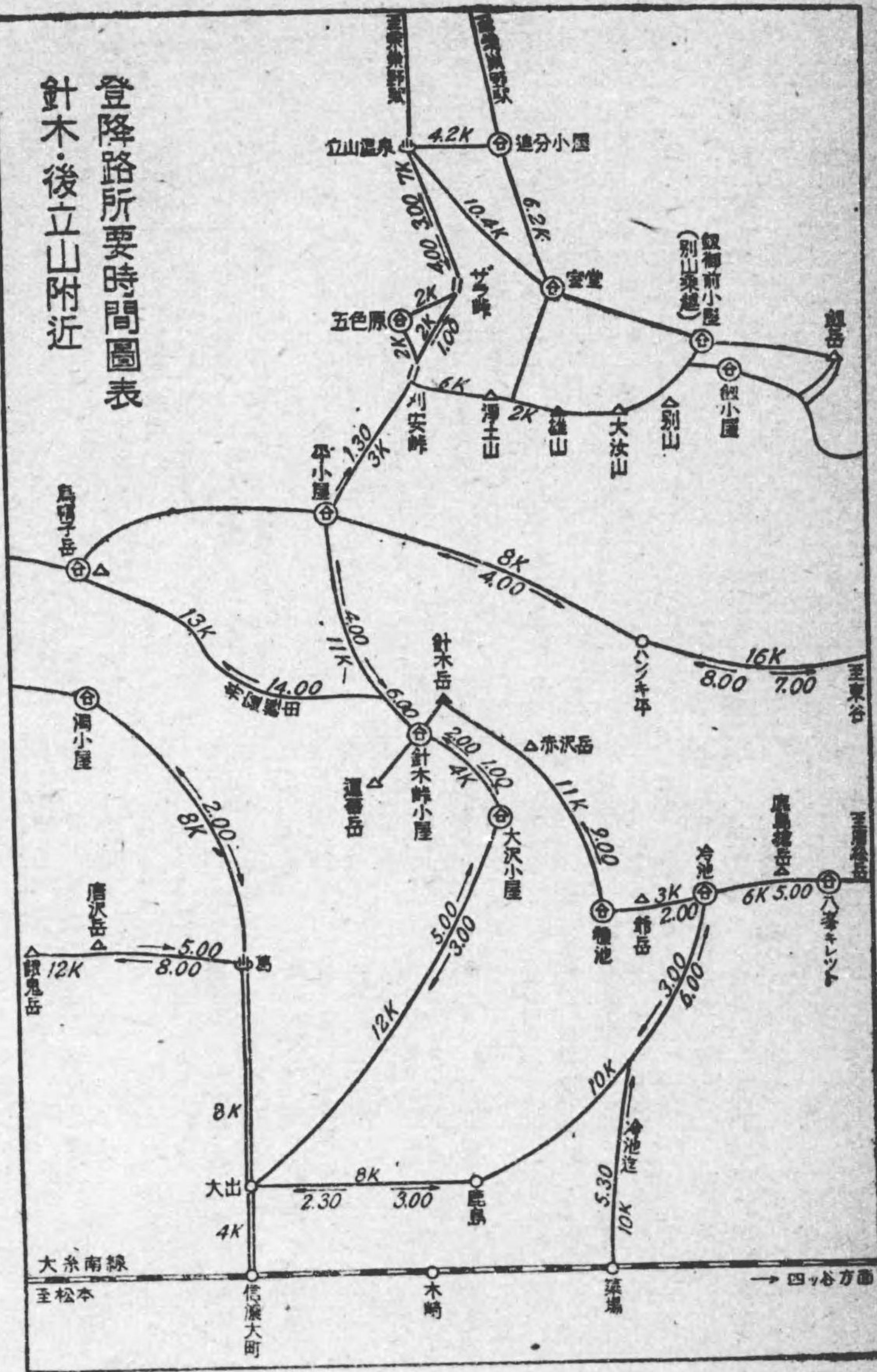
白馬岳及びその附近

案内人詔所 北安曇郡北城村四ツ谷

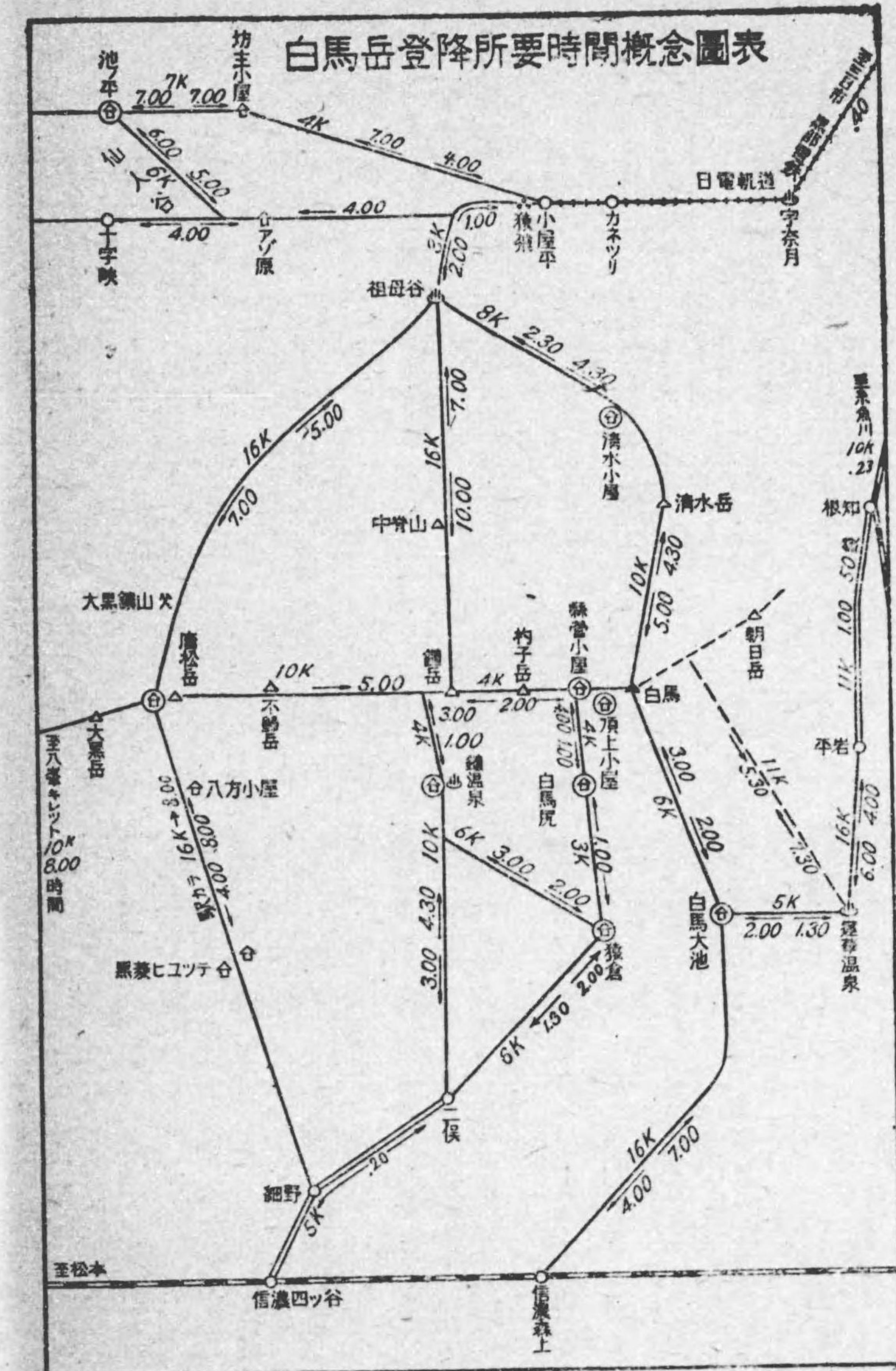
松本→信濃大町→信濃四ツ谷 電車及汽車にて二時(乳糸七
ヶクク 信濃森上 電車及汽車にて三時間四十分(二糸六
四ツ谷一二 保 バス所要一五分(五糸)二〇錢

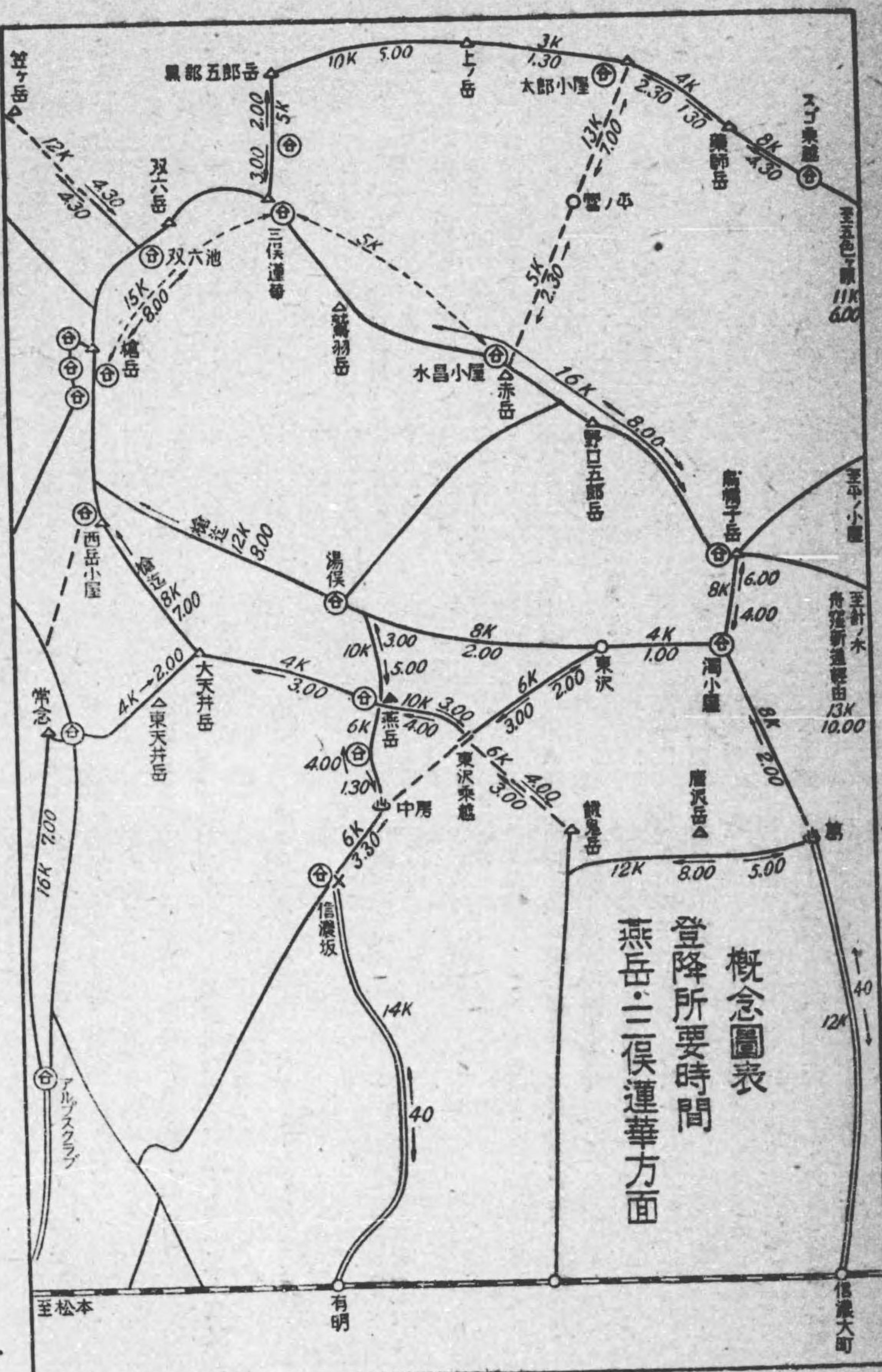
〔註〕中脊山尾根ルートには道路悪しく急坂且つ迷ひ易い所がある。しかし距離が短かく、白馬頂上を早朝出發すればその日に宇奈月温泉へ出ることも出来る。日電軌道は小屋まで延長してゐるから便乘するには、平又か猿飛からが便利である。小屋平終發午後三時二〇分。宇奈月着午後四時五〇分。

升降路所要時間圖表
針木・後立山附近



白馬岳登降所要時間概念圖表





A 案 料一類砂漿
所要出數 三日

大天井——須砂渡——營窯——大天井——
所要日數 三日 乘物宿泊料概算約二云

案内人詰所
大糸南線豊科駅前
柏矢町駅前

(泊)

第四日 八峯キレット小屋：鹿島槍ヶ岳：冷池小屋：爺岳
：種池村營小屋(泊)

第五日 種池小屋：岩小屋澤岳：新越乘越：鳴澤岳：赤澤
岳：スバリ岳：針ノ木岳：針木峠小屋(泊)

第六日 針ノ木峠小屋：大澤小屋：大出：信濃大町驛
松本

〔註〕 ハッ峰キレット附近は峻岨であるから案内人同行を要す。

或は 第六日 針ノ木峠小屋：黒部川平小屋：刈安峠：
相良峠：立山：室堂(泊)→富山

有明登山口

案内人詰所 大糸南線有明驛前

C案 豊科—須砂渡—常念—一ノ保—上高地
所要日數 二日 乗物宿泊料概算 約二〇圓

豊科驛—須砂渡 バス二〇分(六糸)、二十五銭

第一日 豊科 || 須砂渡 : 本澤 : 常念頂上 : 常念小屋(泊)

第二日 常念小屋 : 一ノ保山莊 : 德澤園 : 明神池前 : 上高地
地 || 島々驛至松本↓

E案 白馬・蓮華温泉 所要日數 三日 乘物宿泊料概算約二圓
第一日 四ツ谷→白馬頂上小屋(泊) (前記A案による)
第二日 白馬頂上小屋:白馬大池:蓮華温泉(泊)
第三日 蓮華温泉:平岩||小瀧驛(大糸北線) ||| 糸魚川

F案 白馬岳から後立山連峰縦走
所要日數 七日乃至六日位 乗物宿泊料概算 八圓乃至三圓、
第一日 四ツ谷→白馬頂上小屋(泊) (前記A案による)
第二日 白馬頂上:杓子岳:白馬鎧ヶ岳:不歸岳:唐松岳

篠ノ井線田澤駅—豊科町 八八所要十五分
松本—豊科 駄車(省線)準急で一九分(一二料四) 二〇

篠ノ井線田澤駅—豊科町 八又所要十五分
松本—豊科 電車(省線)準急で一九分(一一軒四) 二〇銭

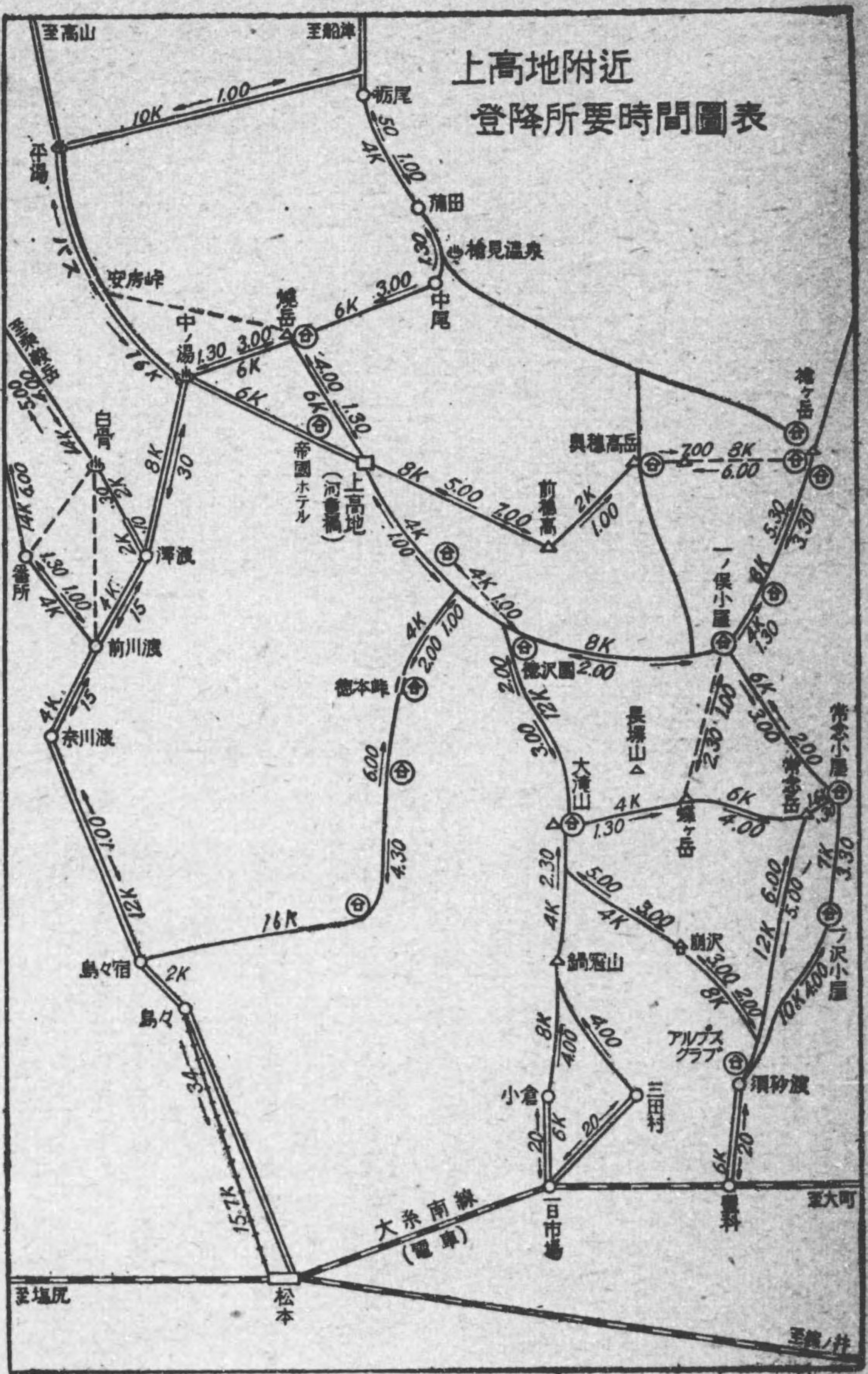
E案 白馬・蓮華温泉 所要日数 三日 乗物宿泊料想額: 二四〇
第一日 四ツ谷→白馬頂上小屋(泊) (前記A案による)
第二日 白馬頂上小屋: 白馬大池: 蓮華温泉(泊)
第三日 蓮華温泉: 平岩 || 小瀧驛(大糸北線) || 大糸魚川

E案 白馬・蓮華温泉 所要日数 三日 乗物宿泊料金(税込) 一
第一日 四ツ谷→白馬頂上小屋(泊) (前記A案による)

第一日 豊科—須砂渡—一ノ澤小屋—常念小屋—常念頂上—常念小屋(泊)

松本—豊科 電車（省線）準急で一九分（一一糸四）
豊科—須砂渡：一ノ澤小屋：常念小屋

- 16 -



- 19 -

- A案 有名驛—中房—燕—大天井—西岳—槍岳—上高地—松本** 所要日數 四日(或は三日) 乘物宿泊料概算約八圓
- 第一日 有明驛＝信濃坂：中房溫泉：燕山莊（泊）
第二日 燕山莊（燕岳頂上往復四〇分）：大天井岳：西岳小屋：殺生小屋：肩ノ小屋：槍岳頂上（往復四〇分）（肩ノ小屋泊）
第三日 肩ノ小屋：殺生小屋：大槍小屋：槍澤ヒュッテ：
一ノ俣山莊：德澤園：明神池前：上高地（泊）
第四日 上高地＝中ノ湯＝烏々驛圭圭松本↓（歸宅）
- B案 有明—中房—燕—大天井—常念—一ノ俣—槍**
上高地—松本 所要日數 五日(或は四日) 乘物宿泊料概算 約三圓
- 第一日 有明驛＝信濃坂：中房溫泉：燕山莊（泊）
第二日 燕山莊—大天井岳：常念小屋：常念岳頂上往復
(又は一ノ俣山莊)(泊)
第三日 常念小屋：一ノ俣山莊：槍澤小屋：大槍小屋：殺生小屋：肩ノ小屋：槍岳頂上：肩ノ小屋(泊)
第四日 槍肩ノ小屋：殺生小屋：大槍小屋：槍澤小屋：
一ノ俣山莊：德澤園：明神池前：上高地（泊）
第五日 上高地＝烏々驛圭圭松本↓（歸宅）
- C案 有名—中房—燕—常念—豐科**
所要日數 三日 乘物宿泊料概算 約二圓
- 第一日 有名驛＝信濃坂：中房溫泉(又は燕山莊)
第二日 (中房溫泉)：燕山莊—大天井岳：常念小屋：常念
岳頂上：常念小屋(泊)
- D案 有名—中房—燕—東澤—葛—大町** 所要日數 三日 乘物宿泊料概算 約三圓
- 第一日 有名驛＝信濃坂：中房溫泉：燕山莊（泊）
第二日 燕山莊—燕岳：高瀬川出合：東澤：濁小屋：葛溫泉（泊）
第三日 葛溫泉(三井、四井、五井)：信濃大町：松本↓（歸宅）
- 三田（大瀧）登山口** 案内人詰所 大糸南線豊科驛前
南安曇郡三田村谷場内
- A案 豊科—須砂渡—崩澤—大瀧—槍ヶ岳—常念—大天井岳—燕—中房—有名**
- 所要日數 四日 乘物宿泊料概算 約六圓
- 第一日 豊科＝須砂渡：崩澤：大瀧小屋(泊)
第二日 大瀧小屋：槍ヶ岳：崩澤：大瀧小屋(泊)
第三日 常念小屋：大天井岳：燕山莊：中房溫泉
第四日 中房溫泉：信濃坂＝有名驛↓松本↓（歸宅）
- B案 松本—三田口—鍋堀—大瀧—槍ヶ岳—常念—大天井岳—燕—中房—有名**
- 所要日數 三日 乘物宿泊料概算 約二圓
- 第一日 松本＝一日市場＝三田口(又は小倉村)：鍋堀山↓

- 20 -

大瀧小屋(泊)

第二日 大瀧小屋・蝶ヶ岳・常念岳頂上・常念小屋

第三日 常念小屋・島川須 砂渡・豊科 松本→(歸宅)

C案 松本→三田口→鍋冠→大瀧→德澤→上高地

所要日數 二日 乗物宿泊料概算 約10圓

第一日 松本→一日市場→三田口(又は小倉村)→鍋冠山→

大瀧小屋(泊)

第二日 大瀧小屋・德澤園・明神池前・上高地→島々宿

松本→(歸宅)

島々登山口

案内人請所 南安曇郡安曇村役場内

ノ保・常念・大天井・燕・中房・有明

松本→島々電車三分(一五分七)四四錢
島々島々宿バス一〇分(二秆)一〇錢
中ノ湯バス
上高地(河童橋)バス二時間半(三四秆)一圓半
松本→三時間半、バス二回
中ノ湯→平湯バス一圓一〇錢、一時間、六回

A案 松本→上高地→繪→大天井→燕→中房→有明

所要日數 四日(或は三日) 乗物宿泊料概算 約八圓

第一日 松本→島々(中ノ湯)→上高地(又は島々・德本

峰・上高地)(泊) 此の日一ノ俣若くは槍澤まで行けば

三日行程に短縮することが出来る。

第二日 上高地・明神池前・德澤園・一ノ俣山莊・槍澤と

ニツテ・大槍小屋・殺生小屋・肩ノ小屋・槍岳頂上・肩

ノ小屋(泊)(又は槍岳各小屋)

第三日 (槍岳各小屋)・西岳小屋・大天井岳・燕山莊・燕

岳(往復四〇分)(泊) 又は・中房温泉泊り

第四日 燕山莊又は中房温泉・信濃坂・有明驛→松本→

B案 松本→島々→德本峠(又は中ノ湯)→上高地→一

ノ保・常念・大天井・燕・中房・有明

所要日數 四日 乗物宿泊料概算 約六圓

第一日 松本→島々(中ノ湯)→上高地(又は中ノ湯)→常念小屋(泊)

第二日 上高地・明神池前・德澤園・一ノ俣山莊・常念小屋(泊)

第三日 常念小屋・大天井・燕・中房温泉

第四日 中房温泉・信濃坂・有明驛→松本→(歸宅)

C案 上高地→燒岳→上高地

上高地・燒岳(小屋)・燒岳・上高地(又は中ノ湯)

D案 上高地→穗高縱走→上高地

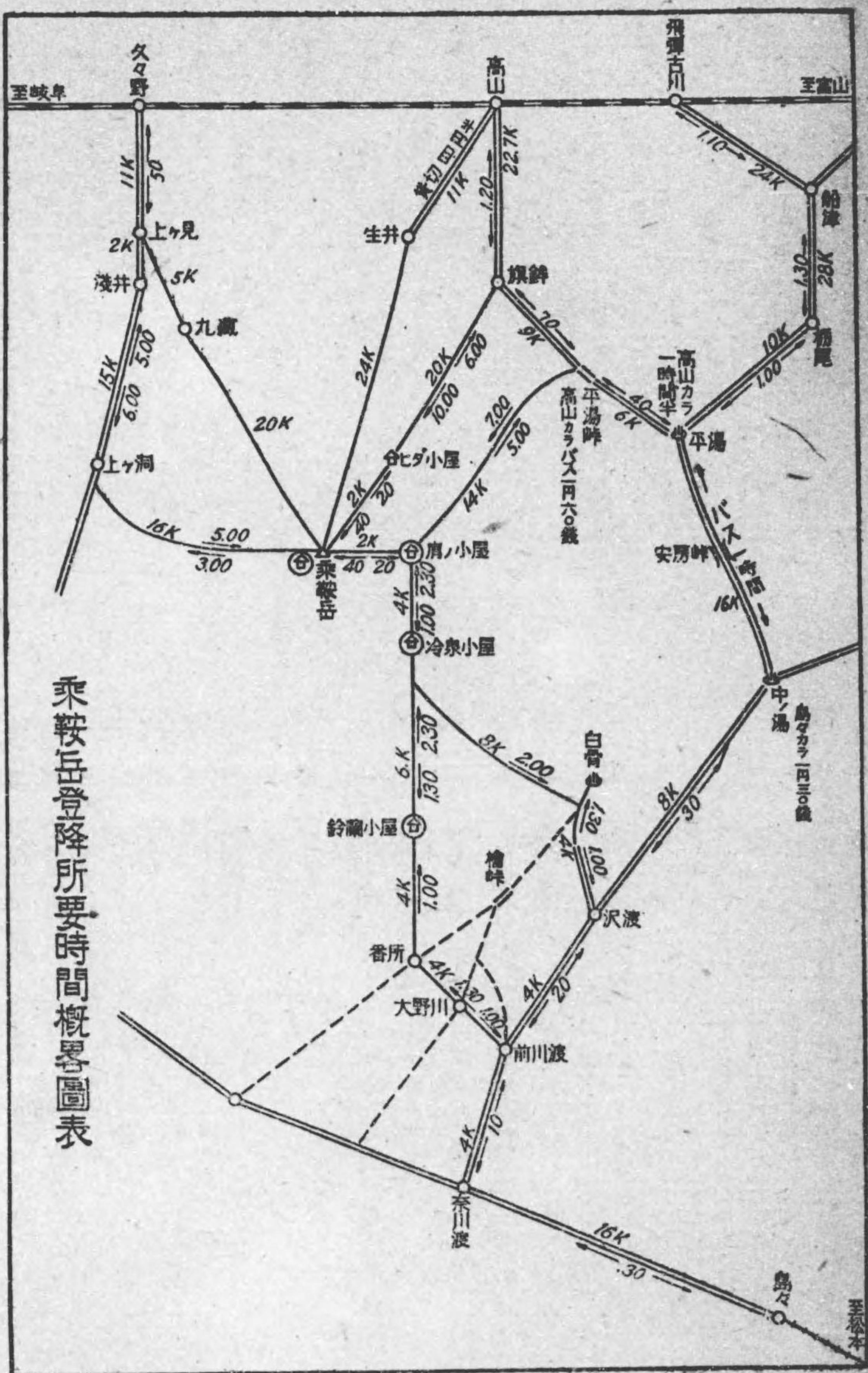
【注】意 必ず案内人を要する

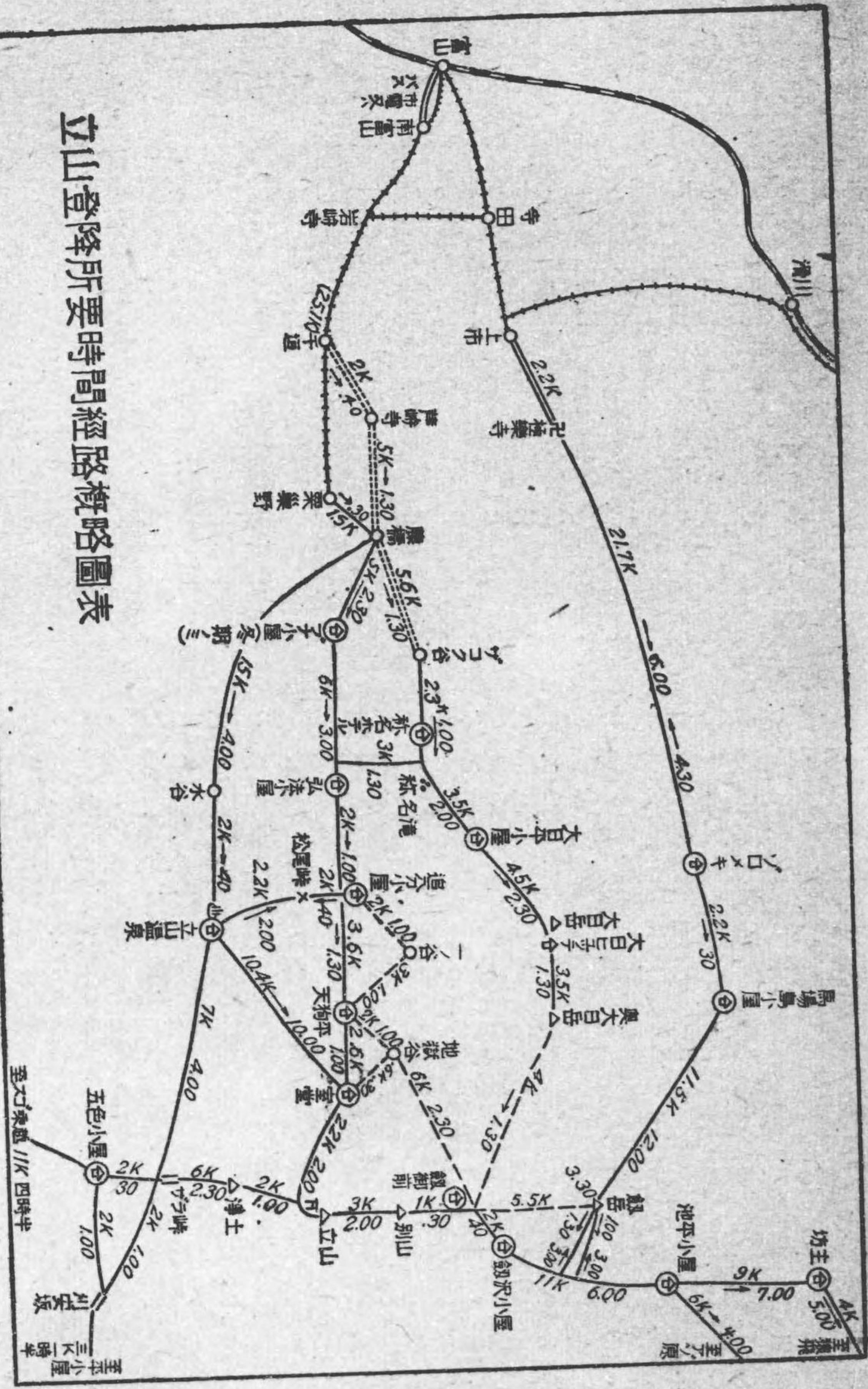
第一日 上高地・前穂高岳・奥穂高岳・穗高小屋(泊)

第二日 穂高小屋・涸澤岳・北穂高岳・南岳・槍岳(泊)

第三日 (槍岳各小屋)・殺生小屋・大槍小屋・槍澤ヒュッテ・一ノ俣山莊・德澤園・明神池前・上高地(之を逆のコースを探り槍岳から穂高縱走をして上高地へ下れば健脚者は一日で縦走することも出来る)

乗鞍岳 案内人請所 南安曇郡安曇村役場内
ノ保・常念・大天井・燕・中房・有明
大野川・白骨山・白骨温泉





立山登降所要時間経路概略圖表

- 23 -

- A案 松本 - 岛々 - 前川渡 - 松本**
所要日數 二日 乗物宿泊料概算 約六圓
島々 - 前川渡
高山 - 旗鉢
ク - 平湯峠
ク - 平湯温泉
平湯峠 - ク
平湯温泉 - ク
バス 七〇錢(110秆)
九〇錢(112秆七)
一圓六〇錢(三一秆五)
一圓六〇錢(三六秆二時間)
四〇錢(六秆)
- B案 松本 - 白骨 - 乘鞍 - 大野川 - 松本**
所要日數 二日(或は三日) 乗物宿泊料概算 約八圓
松本 - 岛々 - 前川渡 - 大野川 - 鈴蘭小屋 - 冷泉
小屋 - 肩ノ小屋(泊)
第二日、肩ノ小屋 - 乘鞍頂上 - 肩ノ小屋 - 冷泉小屋 - 白骨
温泉 - 白骨口 - 岛々 - 松本
バス 九〇錢(112秆七)
一圓六〇錢(三一秆五)
一圓六〇錢(三六秆二時間)
四〇錢(六秆)
- C案 松本 - 白骨 - 乘鞍 - 平湯 - 高山**
所要日數 三日(或は四日) 乗物宿泊料概算 約三圓
第一日 松本 - 岛々 - 白骨口 - 白骨温泉(泊)
第二日 白骨温泉 - 冷泉小屋 - 肩ノ小屋 - 乘鞍岳 - 肩ノ小屋
第三日 平湯峠 - 平湯温泉(泊)
- D案 高山 - 旗鉢 - 乘鞍 - 白骨 - 松本**
所要日數 三日 乗物宿泊料概算 約三圓
高山 - 旗鉢 - 乘鞍 - 白骨 - 松本
- E案 高山 - 旗鉢 - 乘鞍 - 平湯 - 高山**
所要日數 三日 乗物宿泊料概算 約三圓
高山 - 旗鉢 - 飛驒小屋 - 乘鞍頂上小屋(泊)
乘鞍 - 肩ノ小屋 - 平湯峠 - 平湯温泉(泊)
- 双六谷入り**
- 立山登山**
- A案 富山 - 南富山 - 栗葉野 - 宝堂 - 雄山 - 立山温泉 - 富山**
所要日數 三日 乗物宿泊料概算 約三圓
富山 - 南富山
南富山 - 栗葉野
栗葉野 - 藤橋(一秆五)
藤橋 - 栗葉谷(五秆六)
市電又はバス共五錢
電車五五分(一五秆一)、賃六三錢
打込小屋(一三秆半) 双六池室堂(泊)
打込小屋から飛驒六府へ行く場合は一日コースとなる
打込小屋 - 双六池室堂 - 池室堂(一三秆半) 池室堂から飛驒六府へ行く場合は一日コースとなる
打込小屋 - 槍ヶ岳 - 肩ノ小屋 - 上高地
- 第一日 飛驒國府 - 本郷 - 金木戸(泊)**
飛驒國府 - 本郷
金木戸 - 一秆半
打込小屋(泊)
- 第二日 金木戸 - 打込小屋(泊)**
打込小屋 - 三秆半
打込小屋 - 双六池室堂(泊)
- 第三日 双六池室堂 - 槍ヶ岳 - 肩ノ小屋 - 上高地**
- 第一日 富山 - 南富山 - 栗葉野 - 宝堂 - 雄山 - 立山温泉 - 富山**
富山 - 南富山
南富山 - 栗葉野
栗葉野 - 藤橋(一秆五)
藤橋 - 栗葉谷(五秆六)
市電又はバス共五錢
電車五五分(一五秆一)、賃六三錢
打込小屋(一三秆半) 双六池室堂(泊)
打込小屋から飛驒六府へ行く場合は一日コースとなる
打込小屋 - 双六池室堂 - 池室堂(一三秆半) 池室堂から飛驒六府へ行く場合は一日コースとなる
打込小屋 - 槍ヶ岳 - 肩ノ小屋 - 上高地
- 第一日 富山 - 南富山 - 栗葉野 - 宝堂 - 雄山 - 立山温泉 - 富山**
富山 - 南富山
南富山 - 栗葉野
栗葉野 - 藤橋(一秆五)
藤橋 - 栗葉谷(五秆六)
市電又はバス共五錢
電車五五分(一五秆一)、賃六三錢
打込小屋(一三秆半) 双六池室堂(泊)
打込小屋から飛驒六府へ行く場合は一日コースとなる
打込小屋 - 双六池室堂 - 池室堂(一三秆半) 池室堂から飛驒六府へ行く場合は一日コースとなる
打込小屋 - 槍ヶ岳 - 肩ノ小屋 - 上高地
- 第一日 立山 - 雄山 - 旗鉢 - 乘鞍 - 白骨 - 松本**
立山 - 雄山
雄山 - 旗鉢
旗鉢 - 乘鞍
乘鞍 - 白骨
白骨 - 松本
- 第一日 飛驒國府 - 本郷 - 金木戸(泊)**
飛驒國府 - 本郷
金木戸 - 一秆半
打込小屋(泊)
- 第二日 金木戸 - 打込小屋(泊)**
打込小屋 - 三秆半
打込小屋 - 双六池室堂(泊)
- 第三日 双六池室堂 - 槍ヶ岳 - 肩ノ小屋 - 上高地**
- 第一日 富山 - 南富山 - 栗葉野 - 宝堂 - 雄山 - 立山温泉 - 富山**
富山 - 南富山
南富山 - 栗葉野
栗葉野 - 藤橋(一秆五)
藤橋 - 栗葉谷(五秆六)
市電又はバス共五錢
電車五五分(一五秆一)、賃六三錢
打込小屋(一三秆半) 双六池室堂(泊)
打込小屋から飛驒六府へ行く場合は一日コースとなる
打込小屋 - 双六池室堂 - 池室堂(一三秆半) 池室堂から飛驒六府へ行く場合は一日コースとなる
打込小屋 - 槍ヶ岳 - 肩ノ小屋 - 上高地
- 第一日 富山 - 南富山 - 栗葉野 - 宝堂 - 雄山 - 立山温泉 - 富山**
富山 - 南富山
南富山 - 栗葉野
栗葉野 - 藤橋(一秆五)
藤橋 - 栗葉谷(五秆六)
市電又はバス共五錢
電車五五分(一五秆一)、賃六三錢
打込小屋(一三秆半) 双六池室堂(泊)
打込小屋から飛驒六府へ行く場合は一日コースとなる
打込小屋 - 双六池室堂 - 池室堂(一三秆半) 池室堂から飛驒六府へ行く場合は一日コースとなる
打込小屋 - 槍ヶ岳 - 肩ノ小屋 - 上高地
- 第一日 立山 - 雄山 - 旗鉢 - 乘鞍 - 白骨 - 松本**
立山 - 雄山
雄山 - 旗鉢
旗鉢 - 乘鞍
乘鞍 - 白骨
白骨 - 松本
- 第一日 飛驒國府 - 本郷 - 金木戸(泊)**
飛驒國府 - 本郷
金木戸 - 一秆半
打込小屋(泊)
- 第二日 金木戸 - 打込小屋(泊)**
打込小屋 - 三秆半
打込小屋 - 双六池室堂(泊)
- 第三日 双六池室堂 - 槍ヶ岳 - 肩ノ小屋 - 上高地**

- 22 -



近附屋 小狗天園 公立國部中

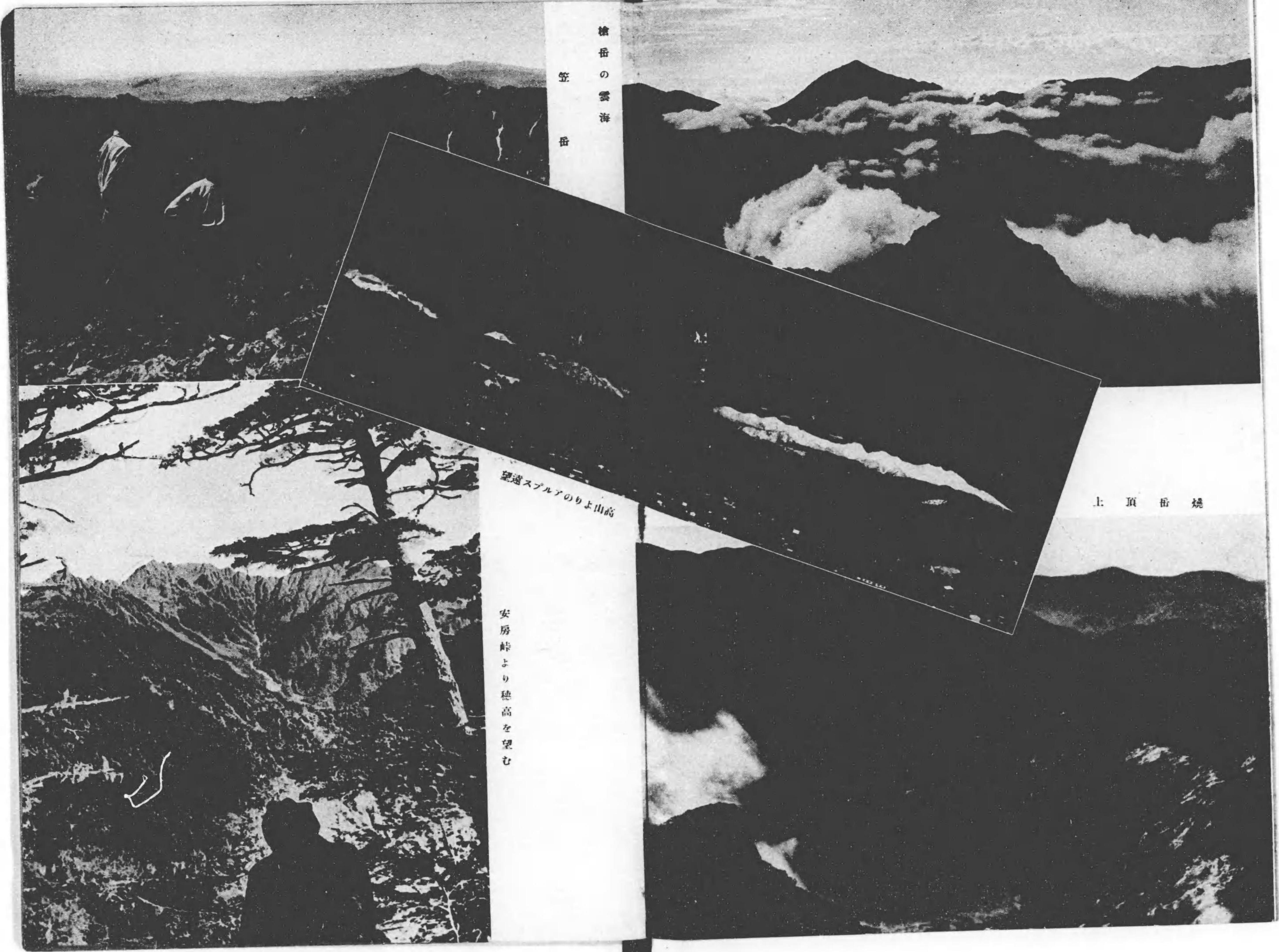


- 第二日** 室堂・雄山・淨土・五色原・立山溫泉(泊)
- 第三日** 立山溫泉・藤橋・栗巢野・富山(歸宅)
- B案 富山—栗巢野—雄山—立山溫泉—富山**
- 所要日數 三日 乗物宿泊料概算 約二圓
- 第一日** 富山・南富山・栗巢野・富山(歸宅)
- 小屋** 天狗小屋(泊)
- 第二日** 天狗小屋・室堂・雄山・立山溫泉(泊)
- 第三日** 立山溫泉・藤橋・栗巢野・富山(歸宅)
- C案 富山—栗巢野—稱名—雄山—劍御前小屋—大日**
- 所要日數 四日 乗物宿泊料概算 約六圓
- 第一日** 南富山・栗巢野・雜穀谷・稱名・弘法・追分小屋・天狗小屋(泊)
- 第二日** 天狗平・室堂・雄山・大汝別山・劍御前小屋(泊)
- 第三日** 劍御前・奥大日・大日ヒュッテ(泊)
- 第四日** 大日ヒュッテ・大日岳・大日平小屋・稱名滝・雜穀谷・栗巢野・南富山・富山(歸宅)
- D案 富山—栗巢野—稱名—大日岳—劍御前—雄山—淨土—五色—平—針ノ木—大澤—大町—松本**
- 所要日數 五日 乗物宿泊料概算 約三圓

- 第一日** (富山驛 一三秆九市分、元錢) 上市驛 又は (滑川驛 一三秆九市分、三錢)
- 第二日** 市場驛 二秆 二市分、三錢 極樂寺 五時間・ゾロメキ發電所 二秆二馬
- 第三日** 馬場島小屋(泊)
- 第四日** 馬場島小屋 五時間半 室堂乘越 一時間半 劍御前小屋、泊) 又は (一時間半 立山室堂、泊) 以下 A 又に B の
- (泊)
- 第一日** 南富山・栗巢野・雜穀谷・稱名滝・大日平小屋
- 第二日** 大日平小屋・大日岳・奥大日岳・劍御前小屋(別山乘越小屋)(泊)
- 第三日** 劍御前小屋・雄山・淨土山・五色小屋(泊)
- 第四日** 五色小屋・平ノ小屋・針ノ木小屋・大澤小屋(泊)
- 第五日** 大澤小屋・大出・信濃大町驛 二秆二馬

- E案 富山—極樂寺—ゾロメキ—馬場島—室堂—藤橋—富山**
- 所要日數 五日 乗物宿泊料概算 約三圓
- 第一日** (富山驛 一三秆九市分、元錢) 上市驛 又は (滑川驛 一三秆九市分、三錢)
- 第二日** 市場驛 二秆 二市分、三錢 極樂寺 五時間・ゾロメキ發電所 二秆二馬
- 第三日** 劍御前小屋・雷鳥澤・劍御前小屋(泊)
- 第四日** 池ノ平・坊主小屋・猿飛・鐘釣溫泉(泊)
- 第五日** 鐘釣溫泉・宇奈月溫泉(泊)
- [註]** 鶴岳長次郎下りは雪渓がありアイゼンを必要とする。
- (參考) 劍岳登山**
- 「註」馬場島小屋、室堂乘越間に雪渓がありアイゼンを必要とする。
このコースは初心者尚ではないから案内人を要する。
- 出合** 一秆二分 劍澤小屋(泊)
- 「註」鶴岳長次郎下りは雪渓がありアイゼンを必要とする。
- 自二五頁 至二八頁 寫眞

「註」大日岳コースは近年開かれたもので熟練者には興味のあるところである。針ノ木岳には大雪渓があるからアイゼンの用意を要す。



槍岳の雲海

笠

上頂岳 焼

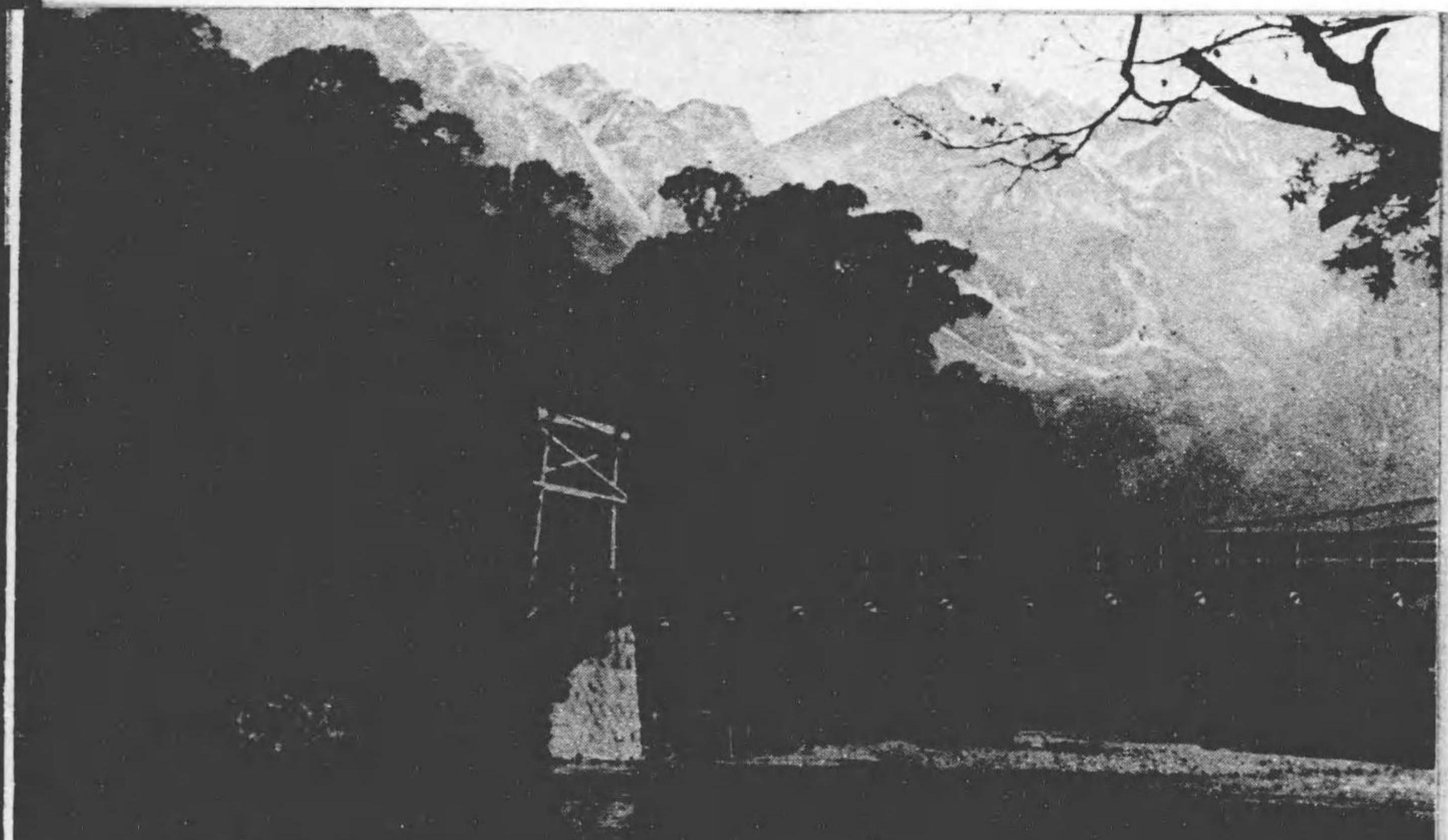
望遠スプルアのりよ山高

安房峠より穗高を望む

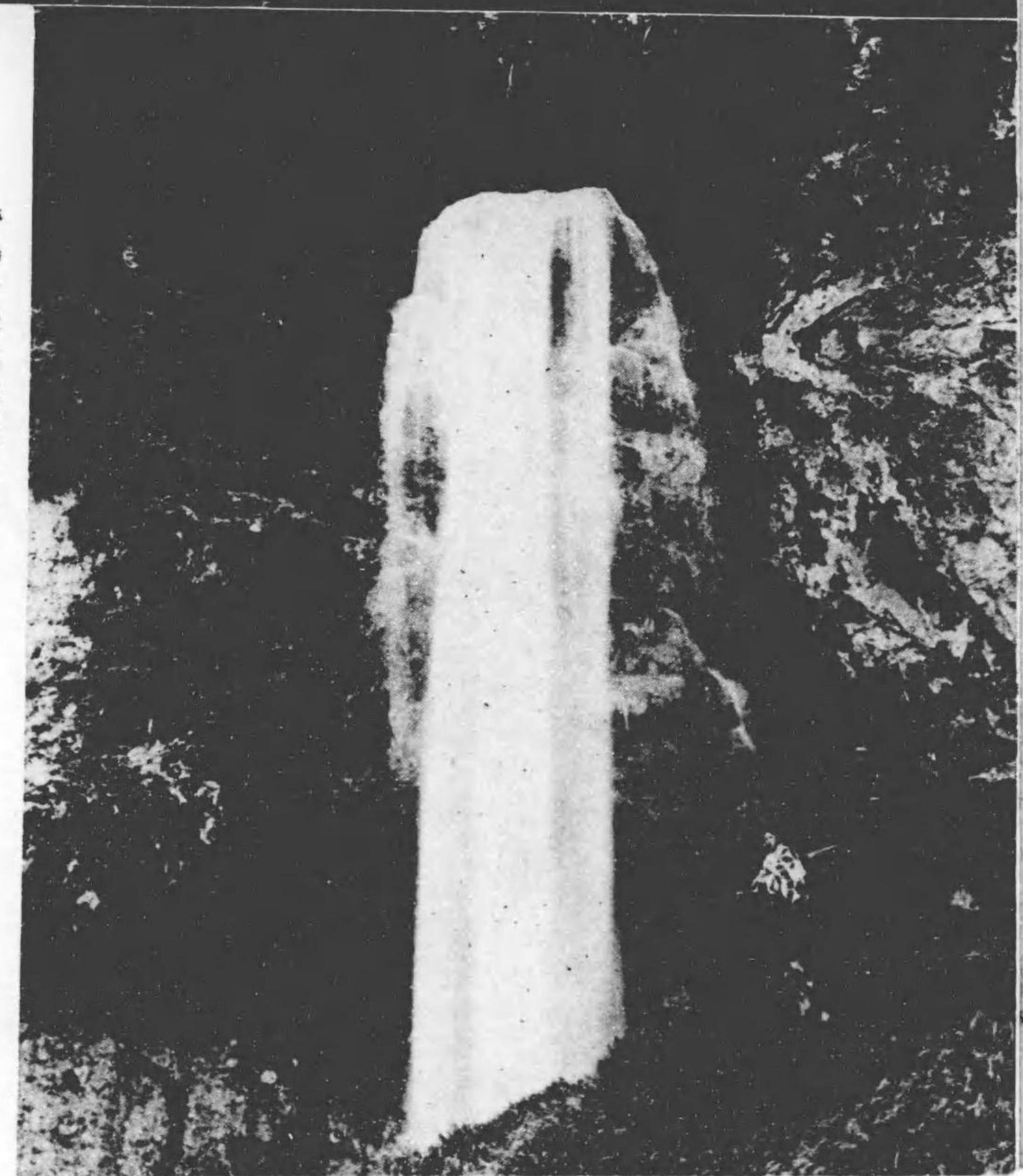
登 山 案 内 人 組 合 名	代 表 者	組 合 所 在 地	日 當	一 日 案 内 料 金
日本アルプス案内人組合	組合長豊科警察署長	長野縣南安曇郡豊科警察署	二・九〇	二・九〇
A 有 明 口 支 部	有明村役場	ク ク		
B 常 念 口 支 部	有明村役場内	ク ク		
C 三 田 (大 滾) 支 部	三田村役場	ク ク		
D 安 曙 村 (島 々 口) 支 部	川上律恵	ク ク		
E 大 野 川 口 (乗鞍口) 支 部	上高地出張所 奥原英男	ク ク		
平 村 登 山 案 内 人 組 合	安曇村大野川	ク ク		
大 町 登 山 案 内 人 組 合	上高地西糸屋	ク ク		
四 谷 案 内 人 組 合	北安曇郡平村役場内	ク ク		
白 馬 平 岩 案 内 人 組 合	大町對山館内	ク ク		
小 川 好 司	新潟縣西頃城區小越村平岩	ク ク		
白 馬 平 岩 案 内 人 組 合 (道華温泉口)	北城村四ツ谷 白馬館内	ク ク		
一、普通日當	三・六〇〇	二・九〇	二・九〇	二・九〇
二、夏期キャンプ及自炊宿泊	三・六〇〇	二・九〇	二・九〇	二・九〇
三、夏期以外の案内	三・六〇〇	二・九〇	二・九〇	二・九〇
以上一、二、三共暴風雪疾病等のため	三・六〇〇	二・九〇	二・九〇	二・九〇
引(汽車、電車、自動車賃、宿泊、辨當等) 松本電鐵の乗車賃及松本自動車五割 於ける宿屋休泊所の宿料は壹割を何れも 案内人に限り割引せらる)は客の負担	三・六〇〇	二・九〇	二・九〇	二・九〇
四、岩登り北尾根縦走	三・五〇	二・九〇	二・九〇	二・九〇
五、穗高縦走	三・五〇	二・九〇	二・九〇	二・九〇
六、二日縦走	三・七〇	二・九〇	二・九〇	二・九〇
七、一日縦走	三・七〇	二・九〇	二・九〇	二・九〇
八、携帶荷物約五貫匁以内	三・七〇	二・九〇	二・九〇	二・九〇
冬期キャンプ、自炊宿泊	三・七〇	二・九〇	二・九〇	二・九〇
三、六〇	二・五〇位	二・五〇位	二・五〇位	二・五〇位
三、三〇	三・五〇位	三・五〇位	三・五〇位	三・五〇位
三、〇〇位	三・三〇位	三・三〇位	三・三〇位	三・三〇位
三、〇〇	二、八〇位	二、八〇位	二、八〇位	二、八〇位

登山案內人料金其他

料金 其他
（註、風雨等にて記在の止むなき場合）
は案内料金在烟問二割引とす



む望を高穂りよ橋童河



平湯の大瀧(乗鞍山麓)

北アルプス山小屋及旅館其他調(昭和十五年度)

クーポンによるコースと費用概算

黑祖清蓮白大	白猿二	白白	大針種冷	大	平穂雙笠
母雞	水華	馬池	馬倉	膠馬	澤
谷溫	溫	馬鍋	(村尻)	小山	木
溫	溫	小	小	小	小
泉	泉屋	泉屋	營屋	屋莊館	泉屋
年	七月一日—九月末日	中	七月一日—八月末日	中	七月一日—八月末日
四月雪花	四〇〇以上	四月雪花	四〇〇以上	四月雪花	四〇〇以上
二・〇〇以上	二・〇〇以上	二・〇〇以上	二・〇〇以上	二・〇〇以上	二・〇〇以上
上並	上並	上並	上並	上並	上並
五五四五	五五四五	五五四五	五五四五	三三五	三四四〇
〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇

スブルア

スブルア山

北アルプス及中部アルプスと共に中部日本に於ける脊梁をなす深山地帶で、所謂赤石山系の北半を云ふものである。その境域は駿河・甲斐・信濃の三國に跨り、之を赤石岳を盟主とする赤石山脈、北嶺を盟主とする白峯山脈、駒ヶ岳・天龍川・富士川などの大河は

斐駒山脈の三部に大別し、大井川・天龍川・富士川などの大河は大體この山脈内に發源してゐる。南北の長さ凡そ一五〇秆、東西の幅は廣い所で約八〇秆に及ぶが、北上するに従つて次第に狭くなり、楔状をなして終に北方諏訪湖附近に至つて盡きてゐる。

最高點はその脊梁をなす白峯北岳（所謂白峯山脈に屬し海拔三、一九三米四）で、之を中心として南北に駒ヶ岳・仙丈ヶ岳・鳳凰山・鹽見岳・荒川岳。赤石岳等一萬尺を凌駕する秀峯連亘し、高度の點に於ては北アルプスの迫隨を許さぬ偉觀を呈するが、その兩側に聳立する前山に遮られて、平地からその全容を見見することの出來ぬのが遺憾である。また稍南に偏する關係上北アルプスに比し雪渓の發達少く、その美觀は劣つてゐるが、しかし千古斧鉋の入らない原生林の美と渓谷の美は南アルプスの持つ大きな特色である。

赤石山系は中部日本の外帶をなす山脈で、南は紀伊山脈と呼應し、その東方は關東山脈と對曲をなしてゐる。三河の渥美半島に起り東北に向つて漸次高さを増し、一度天龍川に遮断され、北に轉向して天龍川・富士川の間に連亘し、赤石岳（三、一七二米）、荒川岳（三、〇八三米セ）、惡澤岳（三、一六六米）、鹽見岳（三、〇四米カ）。仙丈岳（三、〇三米セ）等の高山大岳を起し、東側に大井川、西側に天龍川源流の谷を抱いてゐる。

白峯山脈はいはゆる白峯三山といはれる北岳（三、一九三米四）、間ノ岳（三、一八九米）、農鳥岳（三、〇三米カ）を連ね略南北に延び、西は赤石山脈との間に大井川の谷を隔て、相對し、東は鳳凰山塊との間に富士川上流の谷を抱いて相對してゐる。

甲斐駒山脈は南アルプスの最も北に偏して東西に走つてゐる山脈で、駒ヶ岳（三、一七三米六）を主峯としてその北西に聳ゆる鋸岳（二、六七〇米）と、所謂鳳凰山塊の觀音岳（二、八四〇米九）、藥師岳（二、七三米）、地藏岳（二、七〇米）等の連峯からなつてゐる。

白峯山脈はいはゆる白峯三山といはれる北岳(三、一九三米四)・間ノ岳(三、一八六米三)・農鳥岳(三、〇三五米九)を連ね略南北に延び、西は赤石山脈との間に大井川の谷を隔て、相對し、東は鳳凰山塊との間に富士川上流の谷を抱いて相對してゐる。

甲斐駒山脈は南アルプスの最も北に偏して東西に走つてゐる山脈で、駒ヶ岳(二、九五米六)を主峯としてその北西に聳ゆる鋸岳(二、六九〇米)と、所謂鳳凰山塊の觀音岳(二、八四〇米九)・薬師岳(二、七三二米)・地藏岳(二、七〇米)等の連峯をなつてゐる。

山

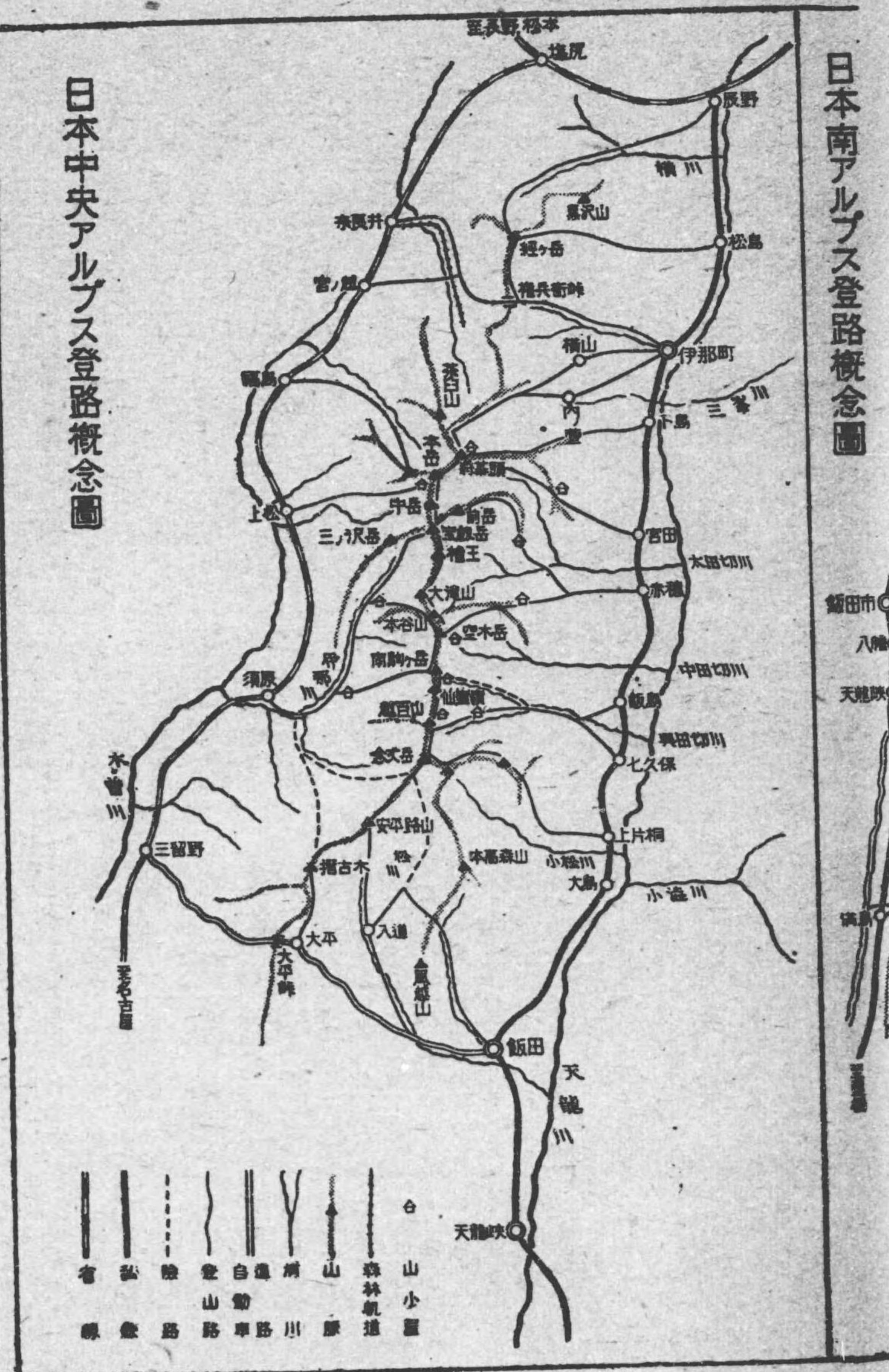
鳳山（海拔二、八〇米九）

甲府盆地の西に聳ゆる花崗岩山の高峯で、日本南アルプスの北端をなす鳳凰山塊の盟主である。山勢雄渾・峻峻。最高峯を觀音岳と稱し、その頂上には花崗岩の岩塊石柱狀をなして屹立すること約六〇米、北アルプスの槍ヶ岳の峯頭と共に頗る偉觀を呈してゐる。古來子授地藏として信仰があり幾多の傳說に富んでゐる。鳳凰山の西南には本州第二の高峯である白峯三山の北岳聳え、その間に富士川の上流なる野呂川の谿を抱いてゐる。北は八ヶ岳と相對してそのまま裾合谷に甲府盆地を貫く釜無川が走つてゐる。甲府を出た列車が西北へ八ヶ岳の裾野を走る間、鳳凰山・駒ヶ岳の二峯は常に車窓左側に高く仰がれ、山頂の花崗岩塊が黒木立の山腹の上に白い美しい岩肌を見せてゐる。

登山は中央線甲府驛・韋崎驛・穴山驛・日野春驛等に下車、青木鑛泉又は御座石鑛泉を経て登るのであるが何れも往復とも云ふべき地位にあり、白鳳會や案内人組合がある。

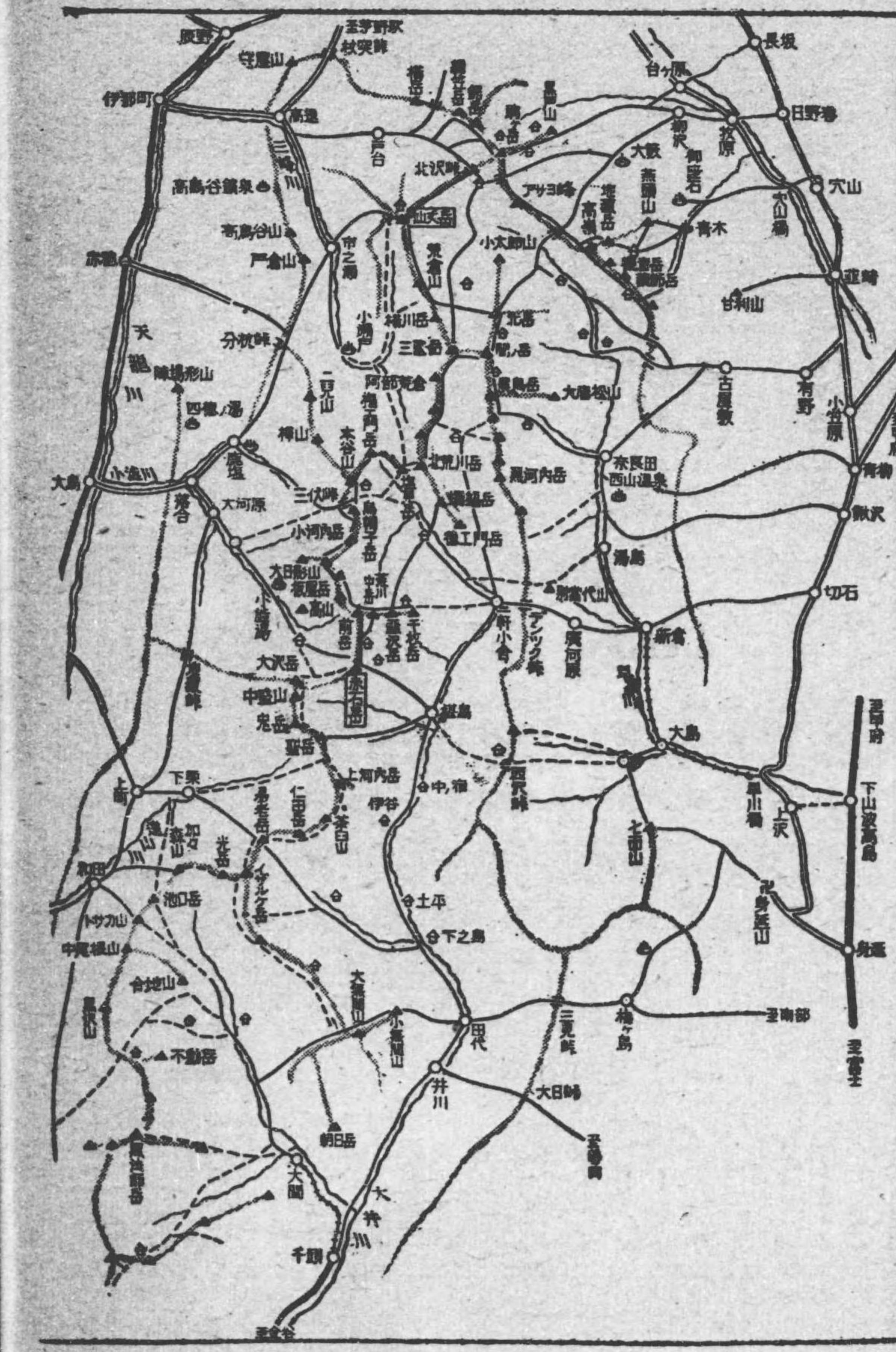
最高峯の觀音岳頂上は眺望雄大である。東北に秩父連峯を望み、東南脚下に甲府盆地を俯瞰し、また富士の秀峯を近くに仰ぎ、南は脚下に深い野呂川の谷を隔て、白峯北岳が最も近くに莊麗な姿を見せて居る。北岳の最も莊麗な姿は鳳凰山から望むに如くものはない。その左は圓みのある間ノ岳が大きく聳え、左の農鳥岳を連ねて深山の王者のやうに擴がつてゐる。また遠く鹽見岳・赤石岳などへ續く南アルプスの連山も一目に見渡される。西には甲斐駒ヶ岳が黒い早川尾根・アサヨ峯などを南に從へて間近に白い峯頭

日本中央アルプス登路概念図



- 35 -

日本南アルプス登路概念図



- 36 -

を見せ、その稍左に仙丈ヶ岳を望み、北には孤立して優雅な裾野を曳く八ヶ岳が近くに眺められる。

甲斐駒ヶ岳

(海拔二,九五米)

〔地図〕五萬分一 薩崎・高遠・市野瀬・白根山近傍圖

赤石山系の北端、甲信の國境に蟠居する雄峯で、赤石嶽等と共に南アルプス五峯の一と呼ばれる名山である。山は花崗岩から成り山容雄偉、遙かに木曾駒ヶ岳と相對してゐる。これを甲州方面より望むと奇峯將に崩れるかの如く仰がれ、信州方面から望むと花崗岩砂の白色が四時雪を戴くかに見えるので白崩山の名がある。また伊那谷地方では之を東駒と呼び、木曾駒ヶ岳を西駒と呼んでゐる。

西北は鋸岳の峻峰に連なり、西南は仙丈岳と相對し、南

は白峯三山から赤石岳へ峯を連ねてゐる。山頂にはカール

が發達して居り、氷蝕の地形として名高い。また山頂には

駒ヶ岳神社があり、古來信仰の山として知られ、登山

は已に四、五百年前から盛んに行はれてゐただけに道も

よく拓け、設備も完備して居り、山體の險岨なるにも似ず

南アルプス中最も多く登山者を迎へてゐる。

登山には中央線方面の韋崎・日野春・穴山驛等から登るものと、伊那谷方面の高遠町を根據地として登るものと

二方面があり、何れも二、三日の行程である。

頂上には花崗岩砂の美しい白砂があり展望また頗る雄大

である。北には眼下に釜無川の渓谷や中央線の通する八ヶ

岳裾野を俯瞰し、谷を隔てゝ八ヶ岳から奥秩父の連峯を望

白峯三山

(海拔二,九三米)

〔地図〕五萬分一 薩崎・市野瀬・大河原・鍾澤・身延・赤石岳近傍圖

ミ、東には鳳凰山が間近かに肩を競ひ、甲府盆地も俯瞰される。東南には富士の秀峯を見せ、南には白峯三山から遠く南アルプス連嶺を一目に見渡し、西には伊那谷を隔てて木曾駒や木曾御岳から北へ一列に連る北アルプスの連嶺を望むことが出来る。

赤石嶽

(海拔二,九五米)

〔地図〕五萬分一 薩崎・高遠・市野瀬・白根山近傍圖

甲斐駒の西北、甲信に跨る岩山で南アルプス連嶺中他に類の無い山貌を持ち、大小無數の硬砂岩の山骨が鋸齒の如く屹立し、之を遠望すれば恰も鋸齒状をなしてゐるので此の名がある。岩峯と岩峯との間の大キツレト(内二大虧裂は登攀技術を要する)はロツク・クライミングの試練場としてその方面的登山家に注目されてゐる。

駒ヶ岳の白雪を覆へる如き優雅な山峯に對し、全山朱泥を塗りつけた様なグロテスクな山容を呈する鋸岳の岩峯は、天の成せる面白い對照をなしてゐる。

登山には主として伊那谷方面から(高遠町經由)するのであるが中央線から甲斐駒又は釜無渓谷を溯行して登ることも出来る。

白峯三山

(海拔二,九三米)

〔地図〕五萬分一 薩崎・市野瀬・大河原・鍾澤・身延・赤石岳近傍圖

南アルプスの中央に聳える雄峯で、所謂白峯山脈の北部にある主峯北岳(二,九三米)及び間ノ岳(二,八九米)・農鳥岳(二,九三米)

米)の三山を謂ふ。北岳は山梨縣の西北部にあり、内地に於ては富士山に次ぐ高峯で、山上は三方に岐れ南峯が最も高く、中央は岩の大瘤をなし、その上に高山植物が密生してゐる。頂上からは四方に急峻な尾根を派出し山容雄偉である。間ノ岳は北岳の南にあり山梨・長野・諱岡の三縣に跨り、北丘よりも三米低い。頂上は比較的廣く、東から北の斜面に亘り南アルプス最大の雪田がある。農鳥岳は最南部に位し、山上は二峯に分れ、その東峯頂上直下の東の窪地に毎年六月上旬から中間にかけて鳥形の殘雪が現れるので此の名があると云ふ。

北は鳳凰山塊との間に富士川上流の野呂川の谷を扼し、間ノ岳・農鳥岳の南西には大井川上流の谷が深く之を割して北荒川岳から鹽見岳・赤石岳へ連る山脈と相對してゐる。

白峯三山は比較的奥深く聳え、且つ前嶺の山が高いので高山の割合に遠望が利かず、甲府盆地や伊那谷からは容易に之を望むことが出来ない。

登山には北から西にかけて鳳凰山・駒ヶ岳・仙丈岳等を指呼の間に望み、西は木曾駒ヶ岳から北アルプスを眺め、南は赤石岳・鹽見岳・富士山を仰ぎ、南アルプスの山嶺や渓谷が波濤の如く見渡される。

赤石嶽

(海拔二,九五米)

〔地図〕五萬分一 大河原・赤石岳・飯田・鍾澤・身延・時又・赤石岳近傍圖

鹽見嶽

(海拔二,九三米)

〔地図〕五萬分一 大河原・赤石岳・飯田・鍾澤

赤石山塊と白峯山を連ねる山脈の中央、駿・信二國の境上に屹立する高峯で、南アルプス連嶺の略中央に位してゐる。白峯連山・甲斐駒以北の連山が北走して釜無連山に逃

げる山々と、仙丈岳から起伏した赤石山脈の遠く鹿々良森

にいたる豪快な尾根を斜面で窓ふやうに、その各々抱く山
峯を見盡せるのは、此の鹽見岳の大きな特色である。山名
のおこりは、頂上から太平洋を望むことが出来「沙が見え
る」と云ふ處から出たと云ふ。

登山には伊那谷方面から登るのもと、伊那町から高
島驛から北條峠・三伏峠を経て登るものと、伊那町から高
遠・市ノ瀬を経て登るものとがある。

山頂附近は概ね岩石地帯で狭く、山腹には高山植物が豊
富である。山頂からは南アルプスの高峯連山が眺められ、
特に白峯三山や赤石岳の眺望が勝れてゐる。

仙丈嶽 (海拔 3,033m)

〔地図〕五萬分一市野瀬・高遠・塙崎・白根山近傍圖

南アルプス連峰の比較的西北、甲斐駒ヶ岳の西南に聳ゆ
る高峯で、東は鳳凰山に對し、東南には南アルプスの重鎮
白峯三山が近くに聳えてゐる。山頂は割合に廣く、また高
山植物が豊富であり、東北の蓼川と東南の小仙丈に面して
開く標式的大カールは此の山の特徴である。

登山は甲斐駒ヶ岳と殆んど同一コースである。

山頂からは南に白峯三山及鹽見岳・赤石岳など南アルブ
スの高山が一眸に集り、東北に駒ヶ岳が最も近く花崗岩砂
の美しい峯が望まれる。また東には鳳凰山、西には三峯川
の谷を俯瞰し、遠く伊那谷を隔て、木曾駒ヶ岳の連峰から
御岳・北アルプスが望まれる。

南アルプス登山日程案

〔註〕乗物概算は省際及社線の最寄下車驛から歸りの乗車驛迄の
費用、但案内人及登山用具の費用を除くを概算したもので
ある。

IIは自動車(主としてバス)……は徒歩

甲斐駒ヶ岳

塙崎驛—臺ヶ原 バス一時間(一六軒)、五〇錢(登山期中各列車に
接続)
日野春驛：牧ノ原(二軒、徒歩三〇分)

牧ノ原—臺ヶ原 バス二〇分(四軒八)、二〇錢(塙崎駅のもの)

穴山驛—穴山驛(二軒、徒歩四〇分)
穴山驛—塙ヶ原(バス塙崎方面からの)三〇分、三五錢
伊那町入舟驛—高遠町 バス二三分(八軒)、三〇錢(三〇分每)、
高遠町—黒河内 バス三三分(一〇軒)、四〇錢(六回)、貸切黒川道
ゆく

A案 塙崎—臺ヶ原—七丈—駒ヶ岳 所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—臺ヶ原—竹宇前宮—塙ノ平—黒戸前屏風—
屏風小屋—七丈小屋(泊)

第二日 七丈小屋—頂上—下山

B案 塙崎—尾白渓谷遍行 所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—臺ヶ原—竹宇前宮—塙ノ平—黒戸前屏風—
屏風小屋—七丈小屋(泊)

第二日 七丈小屋—頂上—下山

C案 塙崎—臺ヶ原—七丈—頂上往復 所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—牧ノ原—柳澤—横手宮前
本谷落合(ウナリ滝)—千丈滝—屏風小屋—七丈小屋(泊)

第二日 七丈小屋—頂上—下山

D案 伊那町—高遠—頂上往復 所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—牧ノ原—柳澤—横手宮前
本谷落合(ウナリ滝)—千丈滝—屏風小屋—七丈小屋(泊)

第二日 七丈小屋—頂上—下山

E案 塙崎—青木地藏岳—觀音岳—藥師岳 所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—青木地藏岳—觀音岳—藥師岳
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—伊那町入舟—黒河内—戸臺—赤河原
六合目小屋(泊)

第二日 六合目小屋—頂上—下山

F案 塙崎—青木地藏岳—觀音岳—藥師岳 所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—伊那町入舟—黒河内—戸臺—赤河原
六合目小屋(泊)

第二日 六合目小屋—頂上—下山

鳳凰山

A案 塙崎—青木地藏岳—觀音岳—藥師岳
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—伊那町入舟—黒河内—戸臺—赤河原
六合目小屋(泊)

第二日 六合目小屋—頂上—下山

C案 塙崎—牧ノ原—山高—燕頭山 所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—牧ノ原—山高—燕頭山
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—祖母石村北端—青木發電所—鳥居峠
青木鍛泉—南精進滝—五色滝—北御室小屋(泊)

第二日 六合目小屋—頂上—下山

D案 塙崎—鳳凰小屋—御座石鍛泉—地藏岳 所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—鳳凰小屋—御座石鍛泉—地藏岳
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—鳳凰小屋—御座石鍛泉—地藏岳
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第二日 鳳凰小屋—地藏岳—觀音岳—藥師岳
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—鳳凰小屋—地藏岳—觀音岳—藥師岳
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第二日 鳳凰小屋—地藏岳—觀音岳—藥師岳
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第三日 芦倉—有野—甲府驛 所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—圓野—御座石鍛泉—地藏岳 所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—圓野—御座石鍛泉—地藏岳
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—圓野—御座石鍛泉—地藏岳
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第二日 地藏岳—旭岳神社—燕頭山
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—圓野—御座石鍛泉—地藏岳
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第二日 地藏岳—旭岳神社—燕頭山
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第三日 燕頭山—富士見臺—鳳凰小屋(泊)
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—圓野—御座石鍛泉—地藏岳
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第二日 地藏岳—旭岳神社—燕頭山
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第三日 燕頭山—富士見臺—鳳凰小屋(泊)
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—圓野—御座石鍛泉—地藏岳
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第二日 地藏岳—旭岳神社—燕頭山
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第三日 燕頭山—富士見臺—鳳凰小屋(泊)
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—圓野—御座石鍛泉—地藏岳
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第二日 地藏岳—旭岳神社—燕頭山
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第三日 燕頭山—富士見臺—鳳凰小屋(泊)
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—圓野—御座石鍛泉—地藏岳
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第二日 地藏岳—旭岳神社—燕頭山
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第三日 燕頭山—富士見臺—鳳凰小屋(泊)
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—圓野—御座石鍛泉—地藏岳
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第二日 地藏岳—旭岳神社—燕頭山
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第三日 燕頭山—富士見臺—鳳凰小屋(泊)
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—圓野—御座石鍛泉—地藏岳
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第二日 地藏岳—旭岳神社—燕頭山
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第三日 燕頭山—富士見臺—鳳凰小屋(泊)
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—圓野—御座石鍛泉—地藏岳
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第二日 地藏岳—旭岳神社—燕頭山
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第三日 燕頭山—富士見臺—鳳凰小屋(泊)
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—圓野—御座石鍛泉—地藏岳
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第二日 地藏岳—旭岳神社—燕頭山
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第三日 燕頭山—富士見臺—鳳凰小屋(泊)
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—圓野—御座石鍛泉—地藏岳
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第二日 地藏岳—旭岳神社—燕頭山
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第三日 燕頭山—富士見臺—鳳凰小屋(泊)
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—圓野—御座石鍛泉—地藏岳
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第二日 地藏岳—旭岳神社—燕頭山
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第三日 燕頭山—富士見臺—鳳凰小屋(泊)
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—圓野—御座石鍛泉—地藏岳
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第二日 地藏岳—旭岳神社—燕頭山
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第三日 燕頭山—富士見臺—鳳凰小屋(泊)
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—圓野—御座石鍛泉—地藏岳
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第二日 地藏岳—旭岳神社—燕頭山
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第三日 燕頭山—富士見臺—鳳凰小屋(泊)
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—圓野—御座石鍛泉—地藏岳
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第二日 地藏岳—旭岳神社—燕頭山
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第三日 燕頭山—富士見臺—鳳凰小屋(泊)
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—圓野—御座石鍛泉—地藏岳
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第二日 地藏岳—旭岳神社—燕頭山
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第三日 燕頭山—富士見臺—鳳凰小屋(泊)
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—圓野—御座石鍛泉—地藏岳
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第二日 地藏岳—旭岳神社—燕頭山
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第三日 燕頭山—富士見臺—鳳凰小屋(泊)
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—圓野—御座石鍛泉—地藏岳
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第二日 地藏岳—旭岳神社—燕頭山
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

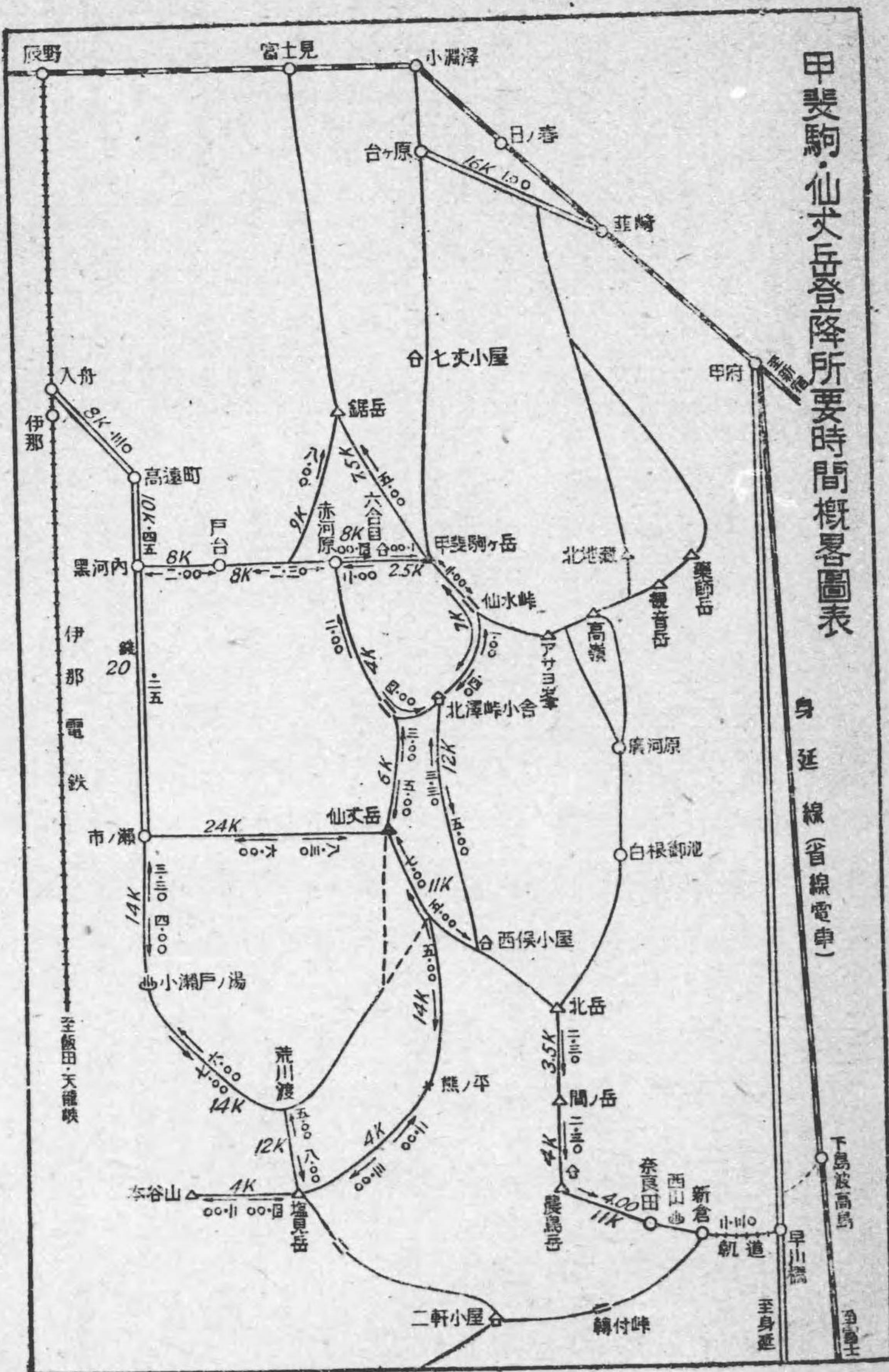
第三日 燕頭山—富士見臺—鳳凰小屋(泊)
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—圓野—御座石鍛泉—地藏岳
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

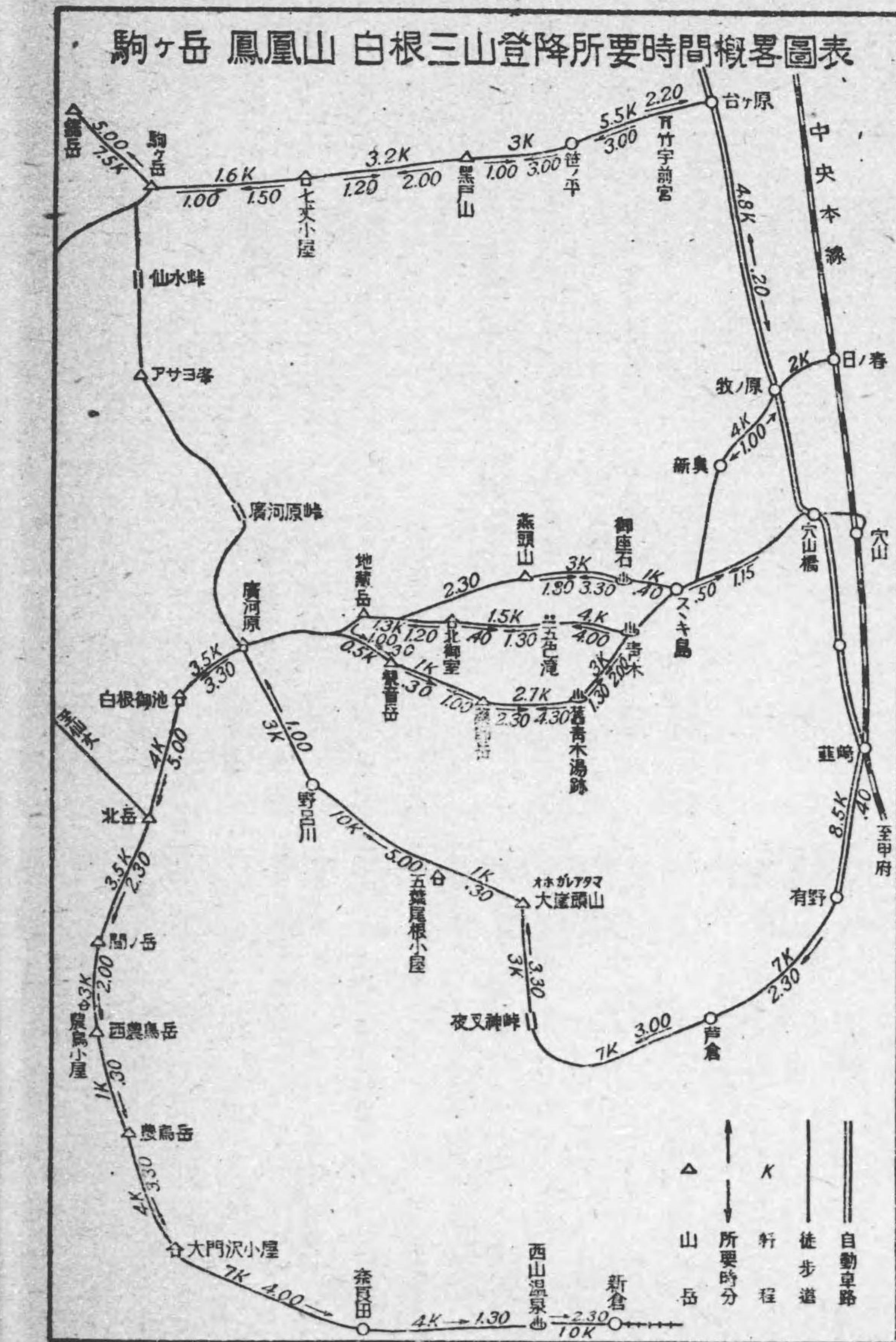
第二日 地藏岳—旭岳神社—燕頭山
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第三日 燕頭山—富士見臺—鳳凰小屋(泊)
所要日數二日
乗物宿泊料概算約八圓

第一日 塙崎—圓野—御座石鍛泉—地藏岳
所要日數二日



- 41 -



- 40 -

D案 甲府—有野—吉倉—杖立峠—薬師

所要日数 二日 乗物宿泊料概算 約八圓

- 第一日 甲府バス 有野 貸 徒歩時間半
杖立峠 三時間 南御室小屋(泊)
- 第二日 南御室小屋 二時間 薬師岳 一時間 觀音岳 四十分 地藏
岳 四十分 北御室小屋 二十分 五色滻 一時間 南精進滻 一時間半
青木鍛泉 二時間 島居峠 一時間半 青木發電所 二十分 祖母岩
一〇分 並崎
一三錢

E案 日野春—牧ノ原—青木

所要日数 二日 乗物宿泊料概算 約八圓

- 第一日 日野春驛 三秆五
貸切あり 牧ノ原・新奥・青木鍛泉(以下A)
案其他に依る

鋸 岳

- 第一日 辰野伊那町入舟驛 一時間半 黒河内 戸臺 赤
河原・駒ヶ岳六合目(泊)
- 第二日 六合目小屋 二秆五
一時間 三ツ頭 二秆
第一高點 二秆 第一高點 二秆
大岩下(岩小屋) 一時間半
角兵衛澤尻 一時間半 戸臺 黒河内 伊那町圭辰野

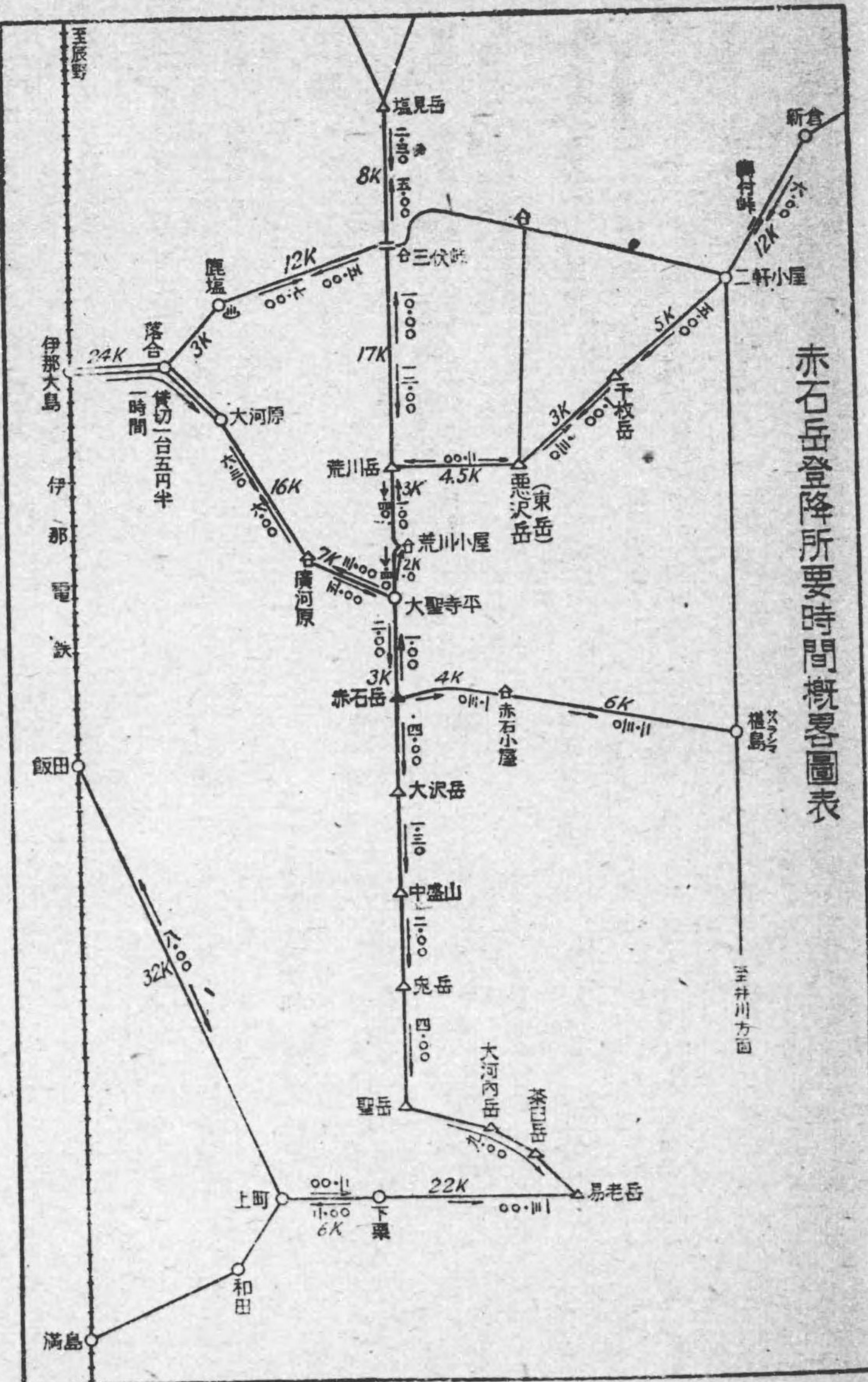
白峯三山

所要日数 五日 乗物宿泊料概算 約一八圓

- 第一日 並崎驛 一〇秆五(又は甲府驛 一〇秆) 源村
有野 七秆(又は甲府から貸切) 吉倉 七秆 夜叉神峠 三時間半
大崖頭山 一〇分 五葉尾根小屋(泊)
- 第二日 五葉尾根小屋 八秆 四時間 廣河原小屋 三秆半
一時間 三秆五 廣河原小屋 三秆半 五葉尾根小屋(泊)

- 第三日 御池小屋 二秆半 小太郎尾根 二秆
門澤降口 二秆半 大門澤尻 一時間半 白峯御池小屋(泊)
田 一時間半 間ノ岳 二秆 西山溫泉(泊)

- 第四日 農鳥小屋 一秆 西農鳥岳 一秆
西山溫泉 七秆 四時間 足馴峠 一秆 出頃茶屋 七秆 鮎澤
又は五日 西山溫泉 一秆 四時間半 新倉 一秆半
早川橋 一秆半 甲府
(又は早川橋 一秆 下山上澤 渡船 下山波高島 一秆半 甲府又は富士)



B案 伊那町—高遠—仙丈岳—北岳

所要日数 七日 乗物宿泊料概算 約一七圓

- 第一日 辰野驛^主伊那町入舟驛^主高遠町^{市之瀬}小瀬^{（泊）}
第二日 北澤峠^{仙丈岳頂上}兩股小屋^{（泊）}

- 第三日 兩股小屋^{北岳頂上}間ノ岳^{農鳥小屋}^{（泊）}

- 第四日 農鳥小屋^{西山溫泉}（以下A案と同じ）

鹽見岳

A案 大島—鹿鹽—三伏峠—鹽見岳

所要日数 二日又は三日 乗物宿泊料概算 約十圓

- 第一日 辰野驛^主伊那電車^{五二軒}伊那大島驛^{三軒バス}^{（一時間半、一圓六錢（税錢））}

- 三軒落合^{三軒五}鹿鹽^一三軒^{（一時間半、四〇分）}

- 三軒^{（一時間半、四〇分）}三伏小屋^{（泊）}（大島

- 牌庭鹽間ハイヤー^{（一時間半、三〇分）}臺十九圓所要時間一時間三分

- 第二日 三伏峠^{（一時間半、三〇分）}鹽見岳^{（一時間半、三〇分）}

- （参考）三伏峠^{（一時間半、三〇分）}小西俣水源野營地^{（一時間半、三〇分）}

- 荒川小屋^{（赤石岳）}^{（一時間半、三〇分）}

- B案 伊那町—高遠—市ノ瀬—鹽見岳^{（一時間半、三〇分）}

所要日数 二日乃至三日 乗物宿泊料概算 約十四圓

- 第一日 辰野驛^主伊那町入舟驛^{高遠町}市之瀬^{小瀬}
第二日 廣河原小屋^{（一時間半、三〇分）}大聖寺平^{（一時間半、三〇分）}赤石岳^{（一時間半、三〇分）}
第三日 荒川小屋^{（一時間半、三〇分）}大聖寺平^{（一時間半、三〇分）}廣河原小屋^{（一時間半、三〇分）}
第四日 荒川小屋^{（一時間半、三〇分）}鹿鹽^{（一時間半、三〇分）}落合^{（一時間半、三〇分）}伊奈大島驛^{（一時間半、三〇分）}

（参考）第三日目を荒川小屋^{（一時間半、三〇分）}荒川岳^{（一時間半、三〇分）}三伏小屋^{（一時間半、三〇分）}
（泊）

赤石岳

A案 伊那町—大河原—荒川—赤石

所要日数 四日 乗物宿泊料概算 約一三圓

- 第一日 伊那大島驛^{（一時間半、三〇分）}大河原^{（一時間半、三〇分）}赤石岳^{（一時間半、三〇分）}
第二日 廣河原小屋^{（一時間半、三〇分）}大聖寺平^{（一時間半、三〇分）}赤石岳^{（一時間半、三〇分）}
第三日 荒川小屋^{（一時間半、三〇分）}大聖寺平^{（一時間半、三〇分）}廣河原小屋^{（一時間半、三〇分）}
第四日 三伏小屋^{（一時間半、三〇分）}鹿鹽^{（一時間半、三〇分）}落合^{（一時間半、三〇分）}伊奈大島驛^{（一時間半、三〇分）}

（参考）大河原は小瀬川奥の繁華地で、赤石岳その他の登山準備地である。

- B案 甲府—早川橋—轉付峠—東岳—赤石岳^{（一時間半、三〇分）}

所要日数 四日 乗物宿泊料概算 約二〇圓

南アルプス連峯 登山案内人・山小屋・其他調

A 高遠町方面

- 第一日 甲府—早川橋（又は甲府驛^{（一時間半、三〇分）}—波高島驛^{（一時間半、三〇分）}

- 第二日 新倉^{（一時間半、三〇分）}廣河原^{（一時間半、三〇分）}轉付峠頂上^{（一時間半、三〇分）}二軒小

- 屋^{（一時間半、三〇分）}千枚小屋^{（泊）}

- 第三日 千枚小屋^{（一時間半、三〇分）}惡澤岳（東岳）^{（一時間半、三〇分）}荒川岳^{（一時間半、三〇分）}

- 第四日 桜島^{（一時間半、三〇分）}二軒小屋^{（泊）}轉付峠^{（一時間半、三〇分）}新倉^{（一時間半、三〇分）}甲

- 府 C案 金谷—千頭驛—梅地—田代—桜島—赤石岳^{（一時間半、三〇分）}

- 第一日 金谷驛^{（一時間半、三〇分）}大井川鐵道^{（一時間半、三〇分）}東海道^{（一時間半、三〇分）}上伊那郡伊那町役場^{（一時間半、三〇分）}

- 第二日 梅地^{（一時間半、三〇分）}（途中に接岨峠の勝がある）井川^{（一時間半、三〇分）}田代^{（一時間半、三〇分）}

- 第三日 田代^{（一時間半、三〇分）}高瀬島^{（一時間半、三〇分）}（途中に大井長瀬の景あり）^{（一時間半、三〇分）}井川^{（一時間半、三〇分）}田代^{（一時間半、三〇分）}

- 第四日 梅地^{（一時間半、三〇分）}中ノ宿^{（一時間半、三〇分）}（一時間半、三〇分）^{（一時間半、三〇分）}桜島^{（泊）}

- 第五日 桜島^{（一時間半、三〇分）}中腹小舍^{（一時間半、三〇分）}赤石岳^{（一時間半、三〇分）}大河原^{（一時間半、三〇分）}

伊那谷方面

B 高遠町方面

伊那谷方面

C 高遠町方面

東駒ヶ岳（甲斐駒）、鋸岳、仙丈岳、北澤峠、釜無連峠、白峯三山、鳳凰山、鹽見岳方面へは伊那電車入舟驛に下車、高遠町を経て戸臺又は市ノ瀬から入るのが順路である。

辰野—伊那入舟^{（一時間半、三〇分、五〇錢）}電車^{（一時間半、三〇分、五〇錢）}伊那大島驛^{（一時間半、三〇分、五〇錢）}（一時間半、三〇分、五〇錢）

高遠—黒河内（戸臺口）^{（一時間半、三〇分、五〇錢）}バス^{（一時間半、三〇分、五〇錢）}（一時間半、三〇分、五〇錢）

高遠商工會山岳部^{（一時間半、三〇分、五〇錢）}（一時間半、三〇分、五〇錢）

（伊那町）^{（一時間半、三〇分、五〇錢）}箕輪屋、中屋、牧輪屋、あいや、扇子屋、入舟館^{（一泊二食付三圓以上、中食五〇錢一圓）}

◎山岳會 上伊那郡赤穂村伊那電鐵支社内^{（一時間半、三〇分）}上伊那聯合山岳會^{（一時間半、三〇分）}伊那町山岳會^{（一時間半、三〇分）}高遠商工會山岳部^{（一時間半、三〇分）}

市ノ瀬口 鹽見岳・仙丈岳方面登山口^{（一時間半、三〇分）}

上伊那郡伊那里村宇市ノ瀬^{（一時間半、三〇分）}平林武夫方^{（一時間半、三〇分）}伊那山岳會^{（一時間半、三〇分）}

案内人料一日 三圓五〇錢(食料車馬宿泊料其他客)

料ノ事但シ一ヶ所ニ滞在ノ場合ハ二圓七〇錢)

鹿鹽を経て登るのが既路である。

辰野伊那大島 電車一時間三五分、賃一圓四八錢(稅二錢)

大島驛上信(北線) バス七〇錢

又は鹿鹽、貸切一臺九圓、所要一時間二〇分

◎旅館・山小屋

旅館 橋本屋、みどり屋 一泊二圓以上

仙丈岳頂上小屋(番人滞在七月十九月)一人一泊自炊一圓

一泊二食付(寢具なし)二圓半

小瀬戸の湯(冬季も宿泊可) 一泊八〇錢以上

戸臺口 東駒・朝・仙丈・朝與・鳳凰三山。

小瀬戸の湯(冬季も宿泊可) 一泊八〇錢以上

戸臺口 白峯三山・北澤峠への登山口

◎案内人組合

上伊那郡美和村字戸臺 竹澤長衛方

案内人組合事務所

◎宿舎・山小屋

戸臺口は物販の販賣店なきも小松傳鋪・竹澤長衛氏宅にて白米、味

噌等を分譲して炎れる。又宿泊することも出来る。

北澤ヒュツテ(長衛小屋) 番人滞在七月十九月

駒ヶ岳頂上小屋(六合目) 番人滞在七月十九月中旬宿

泊自炊五〇錢

泊自炊五〇錢(前半) 一泊二圓一二圓五〇錢

泊自炊五〇錢(後半) 一泊二圓二〇錢

泊自炊五〇錢(前半) 一泊二圓五〇錢

泊自炊五〇錢(後半) 一泊二圓五〇錢

中央線方面其他

山岳會・登山案内人組合

登山口	所 在 地	名 称	電 話
藍崎	山梨縣北巨摩郡藍崎町	白鳳會	六〇
山梨縣北巨摩郡	強力案內組合	藍崎	六一
日野春	白 桧 會	日野春	三二
日野原	白 桧 會	日野春	三四
日野原	白 桧 會	日野春	二〇

B

伊那大島驛方面

南アルプスの主峰赤石岳を中心として荒川三山・三伏岳・聖岳・大澤

番・鬼岳・光岳・易老岳・加々森山等への登山下車場で、大河原又は

C

山小屋・施設

山小屋・施設

面方石赤	面方丈仙	面方峯白	
北萬駒千赤三荒廣 之合伐木小 假助舍枚石伏川内	仙長北 丈齋澤	荒鮎五 川口差根 葉尾根 大門澤(廣河内)	兩間ノ嶽石室 白峯北嶽 白峯御池(大禪池)
ノ人云人ク人云人 人云人云人云人	二軒 云人一云人 人	ノ人ノ人ノ人 ノ人ノ人ノ人	一軒 云人
ノ人無ノ人有	有	カカリカカリカカリ カカリカカリカカリ	無
金金金金金金金	合合合	トトトトトトト	
トトトトトトト	云云云	トトトトトトト	
ノ人有	ノ有	トトトトトトト	

木曾駒ヶ嶽

ヶ嶽（海拔二、九六三

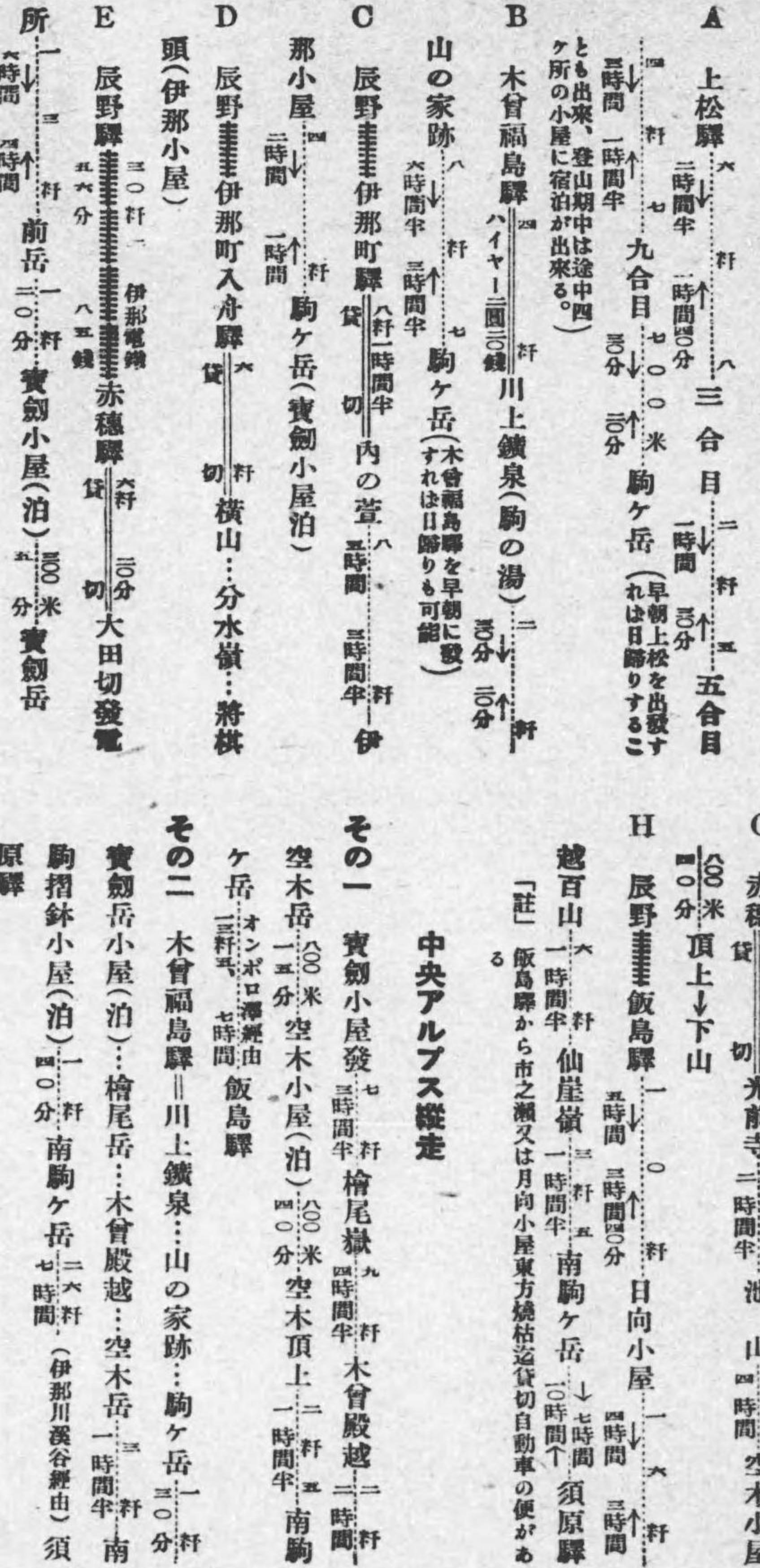
木曾駒ヶ岳を盟主とする所謂木曾山脈で、東は南アルプスの赤石山脈と相對峙し、その間に伊那谷を作り、西は北アルプスの最南に對して木曾谷を作つてゐる。この山地は南日本地帶に屬する一個の獨立地塊で、山勢は櫛平峠及び大平峠の二鞍部に依つて南北・中・北の三部に分たれてゐる。即ち大平峠以南は恵那山地、北部では經ヶ峯岳、中部は駒ヶ岳山地で、駒ヶ岳は中部アルプスの盟主で古來三十六峯八千溪と稱せられ、その根幹をなしてゐる。山勢は一般に單調で、平地からもよく仰がれ、山麓からの登山も比較的容易である

長野縣 西南部に位し、木曾山脈、所謂日本中央アルプスの主峯である。一名木曾駒又は西駒と稱し、主として美しい花崗岩から成り、谷や川が多く、俗に三十六峯八千溪と云はるゝ程渓谷美に富んでゐる。即ち東は天龍川、西は木曾川の渓谷で、山頂から放射狀に流れ出る水は皆此の二つの谷に流下してゐる。山は本岳(三、八三米)及び前岳(三、八三米)、伊那前峯(三、八三米)・劍ヶ峯(三、九三米)等に分れ、木曾山脈の北部は急に高度を減じて權平峠・經ヶ岳を経て次第に丘陵狀となつて松本平の南端に終つてゐるが、南は約二千米内外の諸峯相連つてゐる。

赤穂口・宮田口等の登山路がある。山頂は花崗岩帶を偃松の緑が蔽ひ、高山植物が多くまた

萬年雪も見られる。山頂からは南アルプス八ヶ岳を望み、御嶽ふら西北に北アルプスや木曾谷、伊那谷等の眺めがよ

木曾駒ヶ嶽登山日程案



中央アルプス縦走

中央アルプス縦走

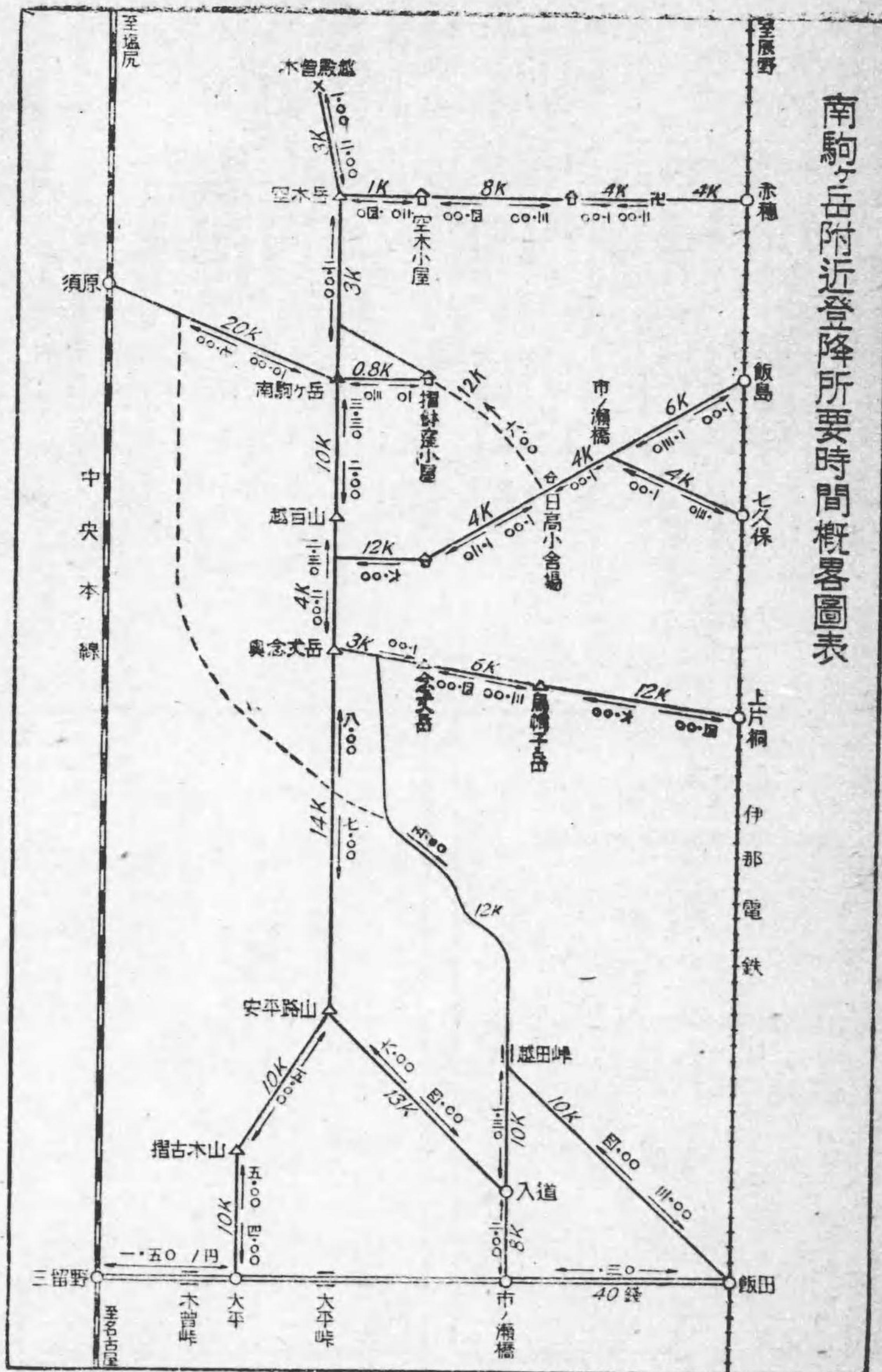
那小屋
三時間 ↓
駒ヶ岳(寶劍小屋泊)
一時間 ↑

D 辰野・伊那町入舟驛
六 貸 初 粋 横山・分水嶺・將棋

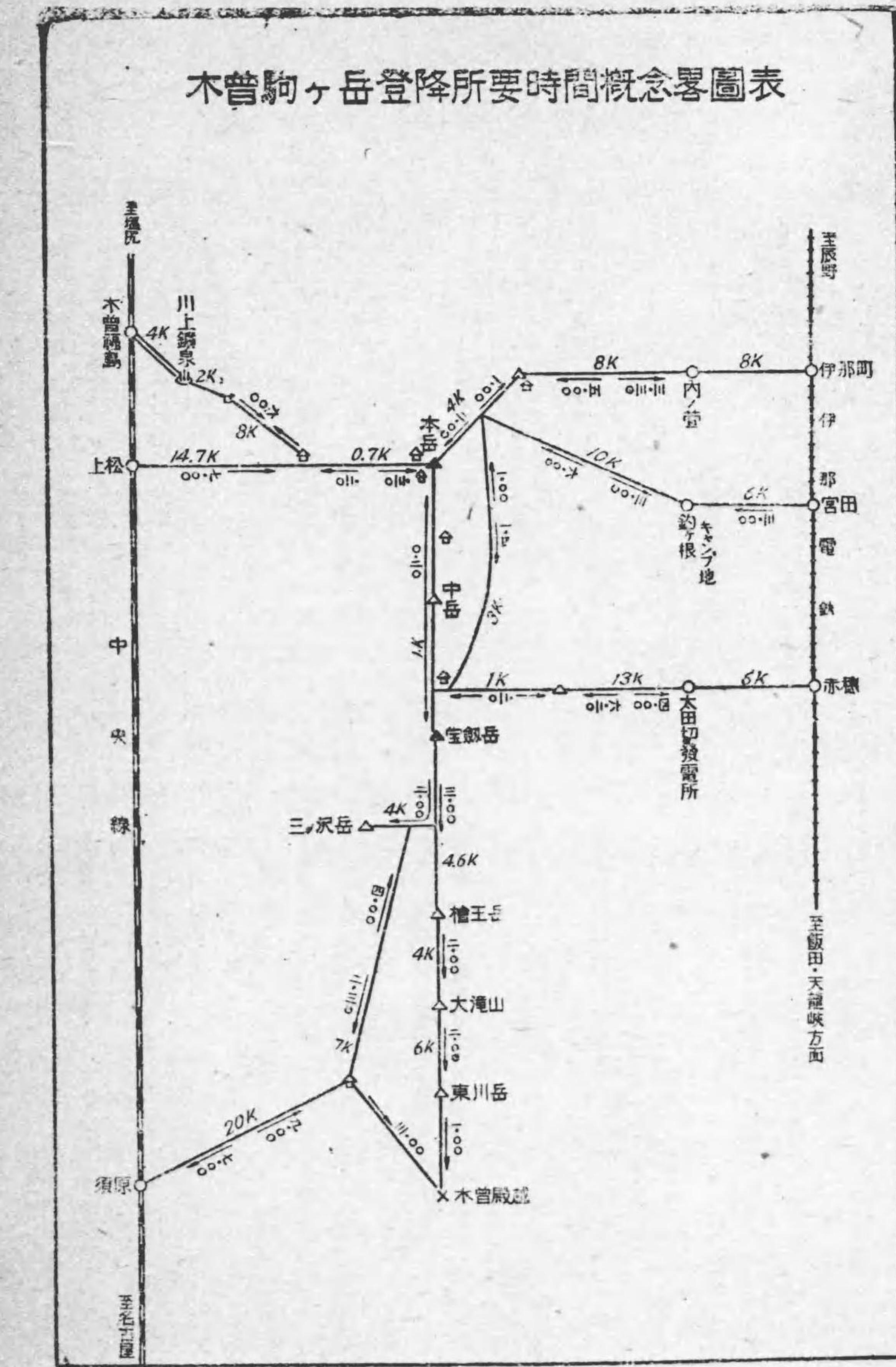
頭(伊那小屋)。

E
辰野脚 赤穂脚
五六分 八五錢 贷 切 大田切發電

所
大時間
四時間
前岳
二〇分 寶劍小屋(泊)
五 分 寶劍岳



- 51 -



- 50 -

ビューロー發賣主要圖書目錄

414
12

41		名	定價	・	丁	金
12	月刊	80	2.5			
	旬表	10	3			
	間表	30	1.5			
	月刊	30	2.5			
温	泉(月刊)	20	1.5			
觀	光 東 亞(月刊)	30	2.5			
滿	洲 グラフ(月刊)	25	1			
新	鐵 道 線 路 圖	35	3			
◎東 京 附 近						
コンサイス	大東京地圖	80	6			
東京から	一二泊	30	3			
健 康 地 案 内 圖		20	3			
大東京遊覽案内圖						
◎關 東 地 方						
日本案内記	關東篇	280	14			
湘伊日上房常東	南豆光越總勢京	15	3			
・箱地鹽水地	根方原方鄉方	15	3			
・地水地	(叢書)	15	3			
・地	(叢書)	15	3			
◎東 北 地 方						
日本案内記	東北篇	200	14			
東 北 地 方	(叢書)	15	3			
東 北 の 玩 具		50	6			
東 北 の 民 俗		50	6			
東 北 溫 泉 風 土 記		50	6			
◎東 海・中部 地 方						
日本案内記	中部篇	270	14			
東 海 地 方	(叢書)	15	3			
中 部 山 岳	(叢書)	15	3			
富士及甲信地方	(叢書)	15	3			
◎北 陸・信 越 地 方						
北 陸		140	14			
北 陸・高 山 線 地 方	(叢書)	15	3			
信 越 及 羽 越 線	(叢書)	15	3			
佐 渡 地 方						
◎近 畿 地 方						
日本案内記	近畿篇(上)	230	14			
" "	(下)	250	14			
聖 地 大 和		100	6			
大 和 めぐり	(叢書)	15	3			
書 名		定價	・	丁	金	
近畿山陰の風物		180	6			
關 西 地 方 巡 拜		15	3			
紀伊・熊野地方(叢書)		15	3			
伊 势 参 宮(叢書)		15	3			
京 都 地 方(叢書)		15	3			
◎中國・四國 地 方						
日本案内記中國・四國篇		250	14			
四 國 地 方(叢書)		15	3			
四 國		120	14			
◎山 險・山 陽 地 方						
山 險 地 方(叢書)		15	3			
山 陽 地 方(叢書)		15	3			
◎九 州 地 方						
日本案内記九州篇		250	14			
九 州 地 方(叢書)		15	3			
◎北 海 道 地 方						
日本案内記北海道篇		230	14			
北 海 道 地 方(叢書)		15	3			
◎滿 洲・支 那 地 方						
最新支那旅行案内		150	10			
滿 支 旅 行 年 鑑		130	14			
最新北支・中支詳圖		35	3			
◎溫 泉 國 優						
ボケット温泉案内		70	6			
溫 泉 案 内		280	14			
溫 泉 療 養 實 話 集		100	9			
◎特 殊 案 内 記						
旅 程 と 費 用 概 算		250	14			
祖國認識旅行叢書(1-10)		各50	6			
郷 土 旅 行 叢 書(1-3)		各70	6			
神 も う で		180	14			
登 山 案 内		100	10			
實 地 路 查 記		40	6			
やさしい會話叢書(1-3)		各10	3			
◎其 他						
旅 行 手 帖		50	3			
サ ー ビ ス 讀 本		120	10			
觀 光 事 業 の 研 究		80	6			

山岳會・登山案内組合(人夫、自動車三日前に申込の事)
長野縣上伊那郡赤穂村 伊那電鐵會社内 上下伊那聯合山岳會
ク ク ク ク ク ク ク ク
ク ク ク ク ク ク ク
伊那町 役場内
伊那町
宮田村宮田驛前
飯島村 役場内
上片桐村 役場内
以上各地共人夫賃日當二圓八〇錢、食事お客様持
西筑摩郡木曾福島町 役場内
木曾山岳會
上松町
上松町
上松登山案内人組合
案内人夫一日三圓五〇錢(擔貨量五貫匁、雨中滞在、在番人小舍五割引
番人なき小舍は三割引、冬季五割増)

伊赤宮	中屋	入舟館	其他	一泊二圓半以上
飯穂田	野々口旅館	一泊一圓以上	筑輪屋	中屋
島村	局角、源屋、北澤館	一泊二圓半以上	入舟館	其他
本曾福島町	太田屋、岩本屋、大黒屋、錢屋	一泊一圓以上	一泊一圓以上	一泊二圓半以上
上片桐村	宮本館、清謫館	一泊二圓以上	太田屋、岩本屋、大黒屋、錢屋	一泊一圓以上
上松町	宮本館、清謫館	一泊二圓以上	島村	野々口旅館
駒ヶ岳頂上	つたや、岩屋、俵屋、青木、其他	一泊二圓半以上	飯穂田	伊赤宮
上條、堺、新あづまや、大正屋、田政	一泊二圓半以上	島村	本曾福島町	上片桐村
宮田小屋（賣城岳下及び中岳本岳間の二ヶ所、七月上旬から九月迄番人滞在）	一泊二圓半、半泊二圓、辨當五〇銭	本曾福島町	上松町	駒ヶ岳頂上
伊那小屋（將棋頭下にあり七月上旬から九月迄番人滞在）	一泊二圓半、半泊七〇銭	木曾小屋	木曾小屋	伊那小屋（將棋頭下にあり七月上旬から九月迄番人滞在）
越百小舍	一泊二圓半、半泊二圓、辨當五〇銭	木曾小屋	木曾小屋	越百小舍
越百小舍	一泊二圓半、半泊二圓、辨當五〇銭	木曾小屋	木曾小屋	越百小舍
空木岳小屋及南駒ヶ岳避難小屋、池山小屋は番人なし	一泊二圓半、半泊二圓、辨當五〇銭	木曾小屋	木曾小屋	空木岳小屋及南駒ヶ岳避難小屋、池山小屋は番人なし
駒ヶ根樂園（宮田口にありハイヤーの便あり、片道一圓半）に小屋あり物貰を給す	一泊二圓半、半泊二圓、辨當五〇銭	木曾小屋	木曾小屋	駒ヶ根樂園（宮田口にありハイヤーの便あり、片道一圓半）に小屋あり物貰を給す
川上饅泉宿料一圓六〇銭（二食付）	一泊二圓半、半泊二圓、辨當五〇銭	木曾小屋	木曾小屋	川上饅泉宿料一圓六〇銭（二食付）

ツーリスト案内叢書 第十輯	中 部 山 岳 地 方	定價 拾五錢
昭和十二年七月二十日印 刷	東京市麹町區丸ノ内一ノ一	送 料 三 錢
昭和十二年七月二十五日發行	社團法人(日)本旅行協會	
昭和十五年九月二十五日 改訂四版	代表者 香月善次	
東京市王子區神谷町一丁目四八二	東京印刷株式會社	
印刷所 東京印刷株式會社	印刷人 吉田了太	

守る公徳
明るい旅路



終